

第3章

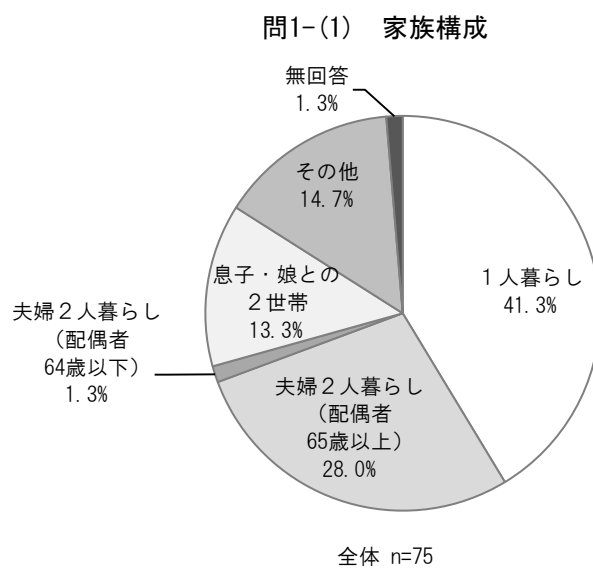
要支援認定者調査結果

第3章 要支援認定者調査結果

1 あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成及び昼間独居者の状況

○要支援者の家族構成をみると、「1人暮らし」(41.3%)が最も多く、次いで「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」(28.0%)、「息子・娘との2世帯」(13.3%)の順となっています。

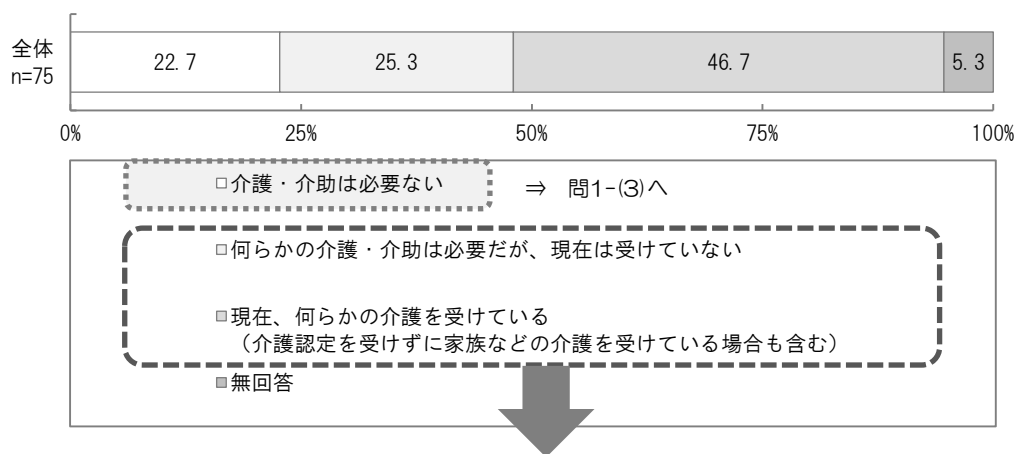


(2) 日常生活における要介護（介助）者の有無

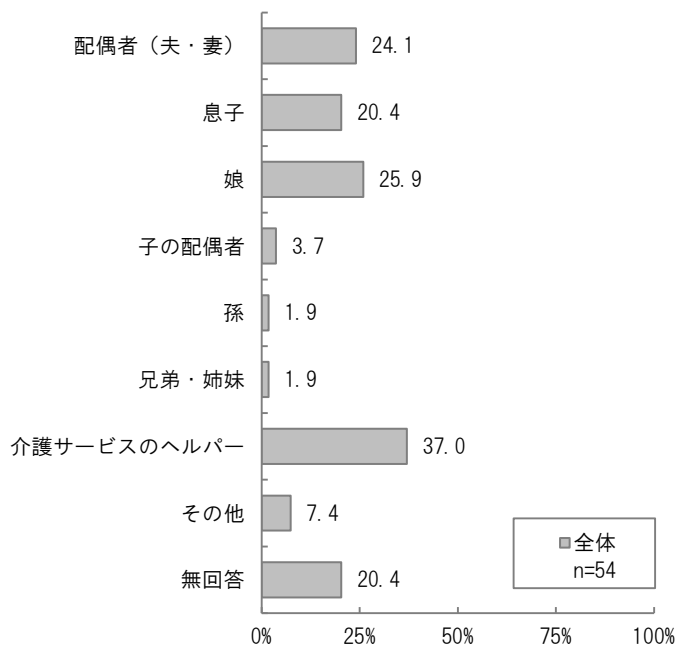
○要支援者の普段の生活における介護・介助の状況をみると、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」（46.7%）が最も多くなっています。

○要支援者の介護、介助をしてきている人は、「介護サービスのヘルパー」（37.0%）が最も多く、次いで「娘」（25.9%）、「配偶者（夫・妻）」（24.1%）、「息子」（20.4%）の順となっています。

問1-(2) 普段の生活で介護・介助が必要か

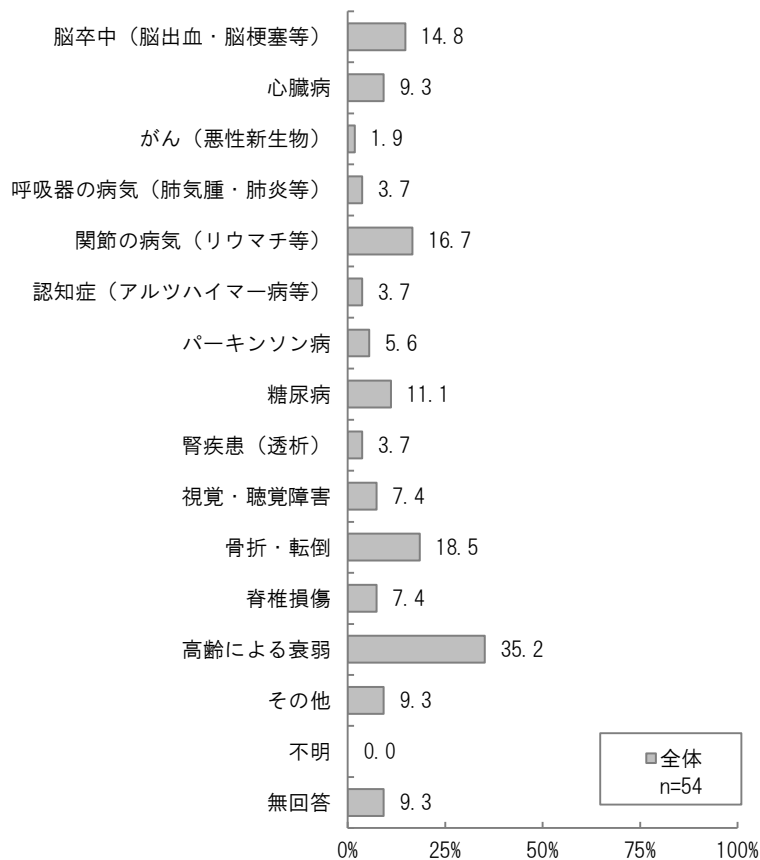


問1-(2).② 介護、介助をしてきている人



○要支援者の介護・介助が必要になった主な原因は、「高齢による衰弱」(35.2%)が最も多く、次いで「骨折・転倒」(18.5%)、「関節の病気(リウマチ等)」(16.7%)、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」(14.8%)、「糖尿病」(11.1%)の順となっています。

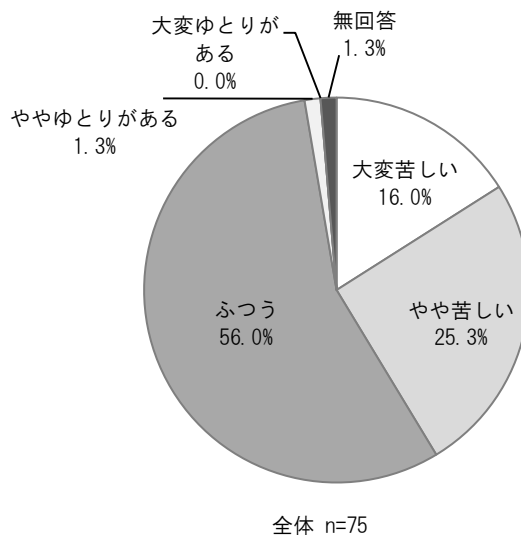
問1-(2).① 介護・介助が必要になった主な原因



(3) 現在の経済状況

○要支援者の現在の暮らしの経済的状況を見ると、「ふつう」(56.0%)が最も多く、次いで「やや苦しい」(25.3%)、「大変苦しい」(16.0%)の順となっています。

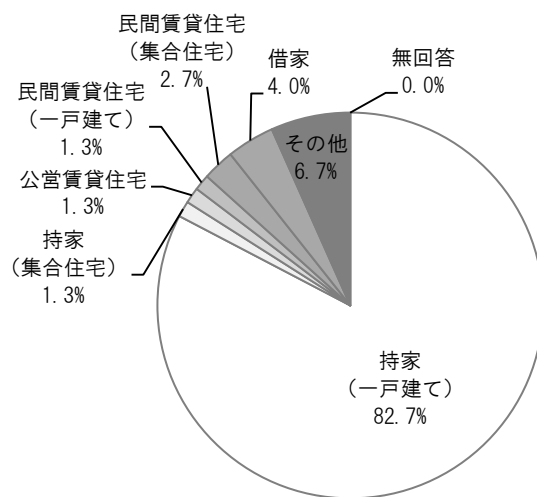
問1-(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみて



(4) 現在の居住環境

○要支援者の現在の暮らしている家の状況は、「持家（一戸建て）」（82.7%）が最も多く、次いで「借家」（4.0%）、「民間賃貸住宅（集合住宅）」（2.7%）、「持家（集合住宅）」「公営賃貸住宅」「民間賃貸住宅（一戸建て）」（各1.3%）の順となっています。

問1-(4) 現在の暮らしている家の状況



全体 n=75

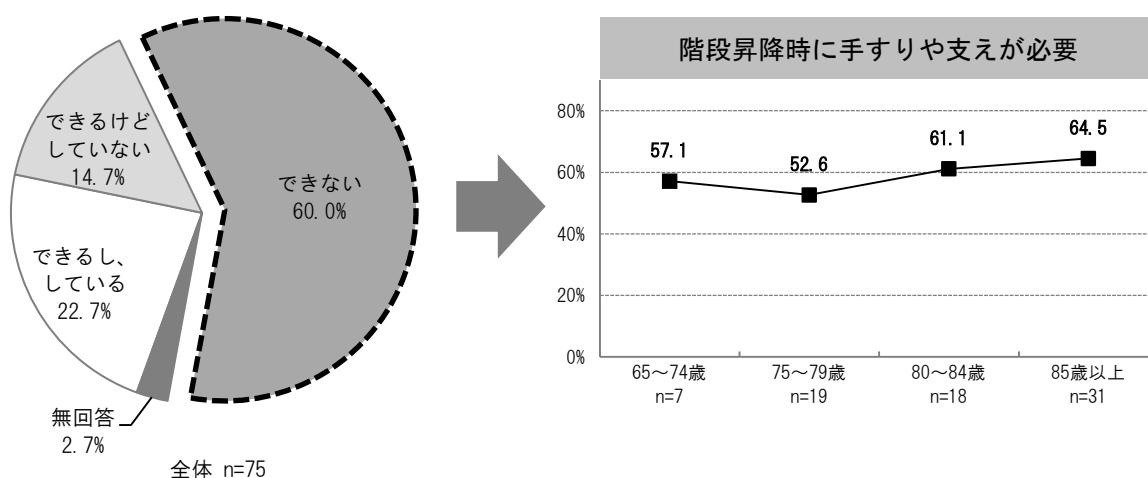
2 からだを動かすことについて

(1) 運動機能の状況

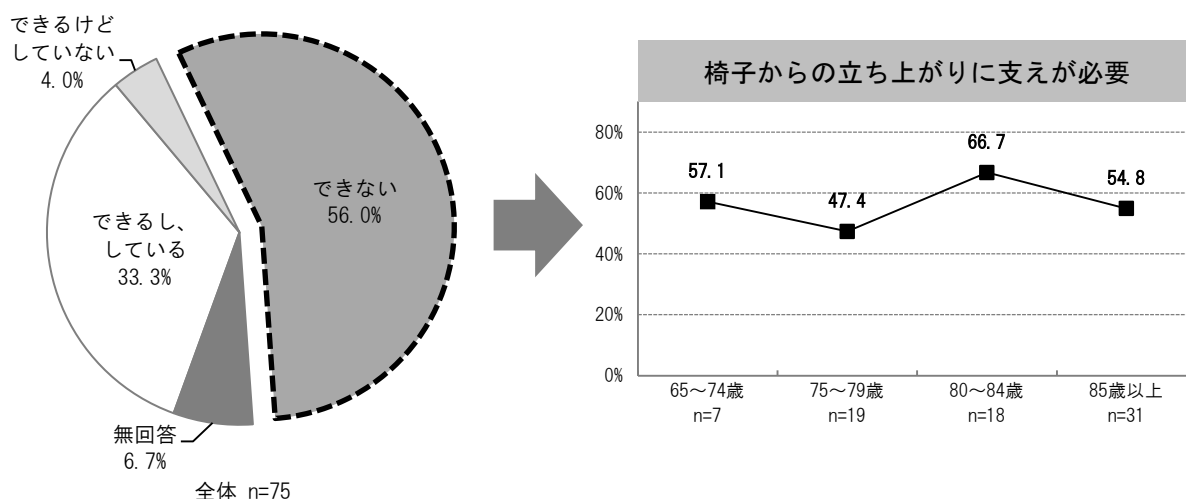
○要支援者の階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができるかでは、「できない」方が60.0%います。その該当者の年齢階級別では80歳以上から割合が高くなっています。

○要支援者の椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができるかでは、「できない」方が56.0%います。その該当者の年齢階級別では80～84歳で割合が高くなっています。

問2-(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができるか



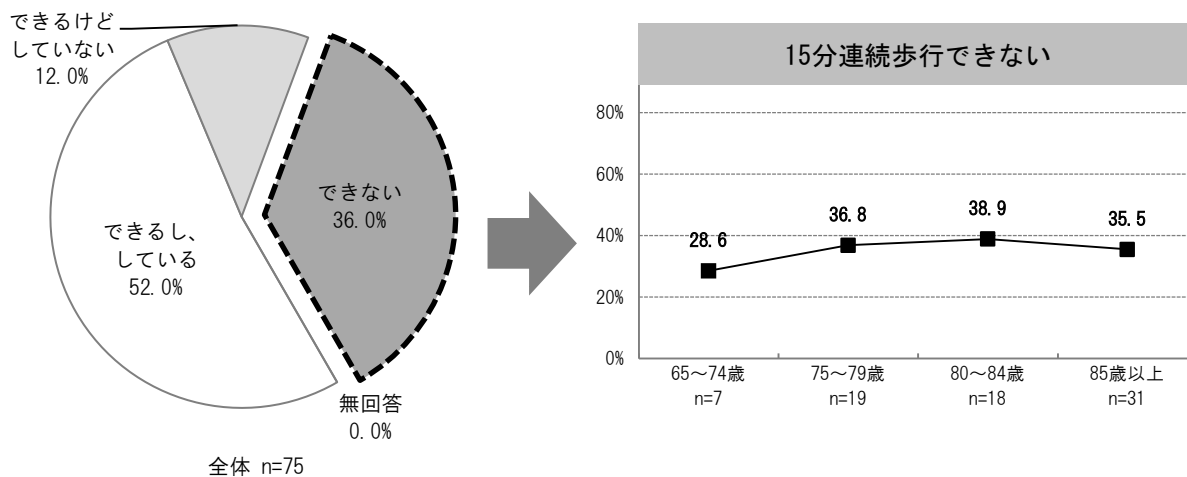
問2-(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができるか



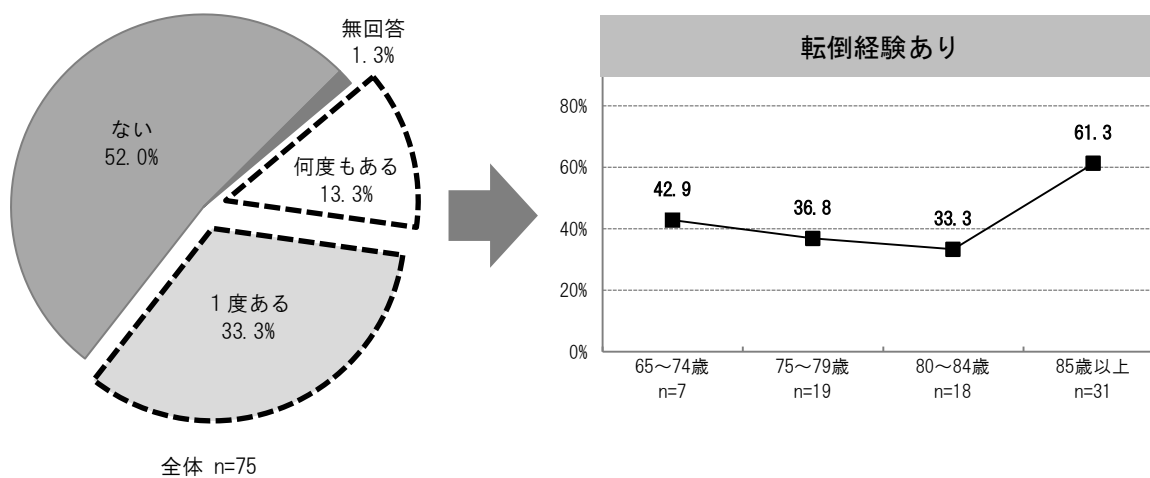
○要支援者の15分位続けて歩くことができるかでは、「できない」方が36.0%います。その該当者の年齢階級別では75歳から割合が高くなっています。

○要支援者の過去1年間に転んだ経験の有無では、「何度もある」（13.3%）と「1度ある」（33.3%）を合わせた46.6%の方が転んだ経験があると回答しています。その該当者の年齢階級別では85歳以上での割合が高くなっています。

問2-(3) 15分位続けて歩くことができるか

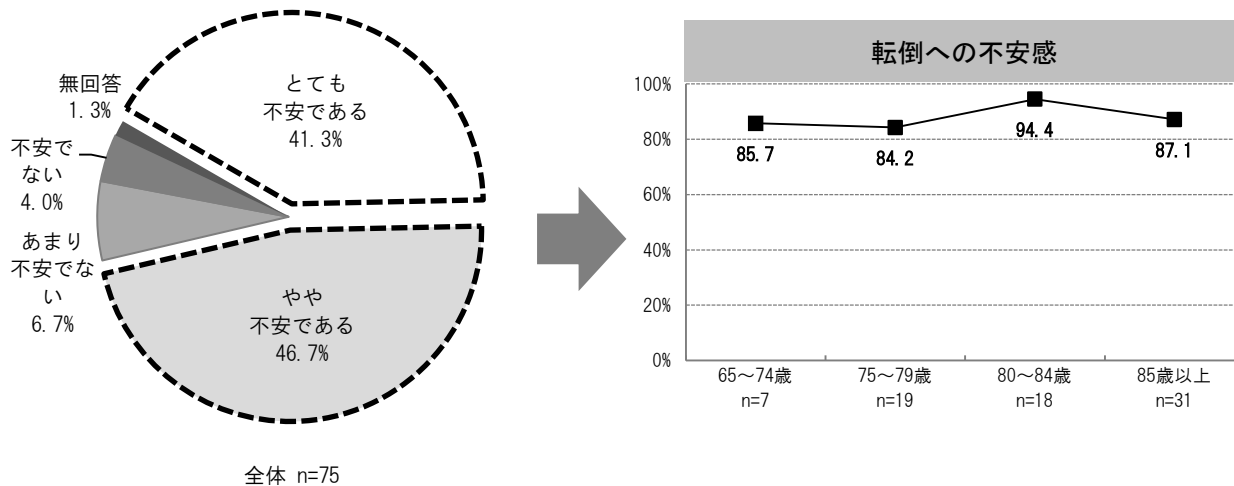


問2-(4) 過去1年間に転んだ経験の有無



○要支援者の転倒に対する不安の有無では、「とても不安である」(41.3%)と「やや不安である」(46.7%)を合わせた88.0%の方が不安であると回答しています。その該当者の年齢階級別では80~84歳で割合が高くなっています。

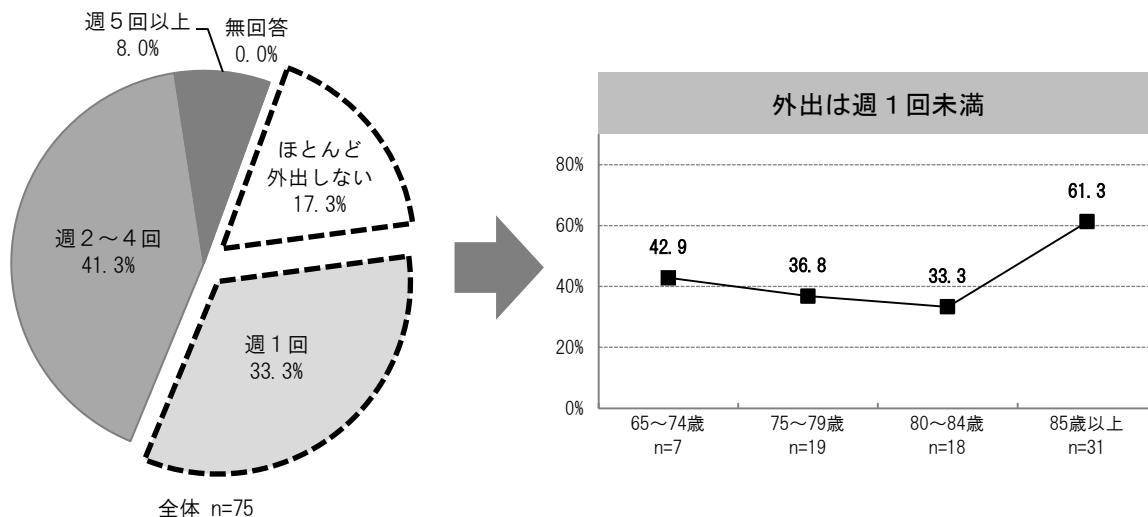
問2-(5) 転倒に対する不安の有無



(2) 外出の状況

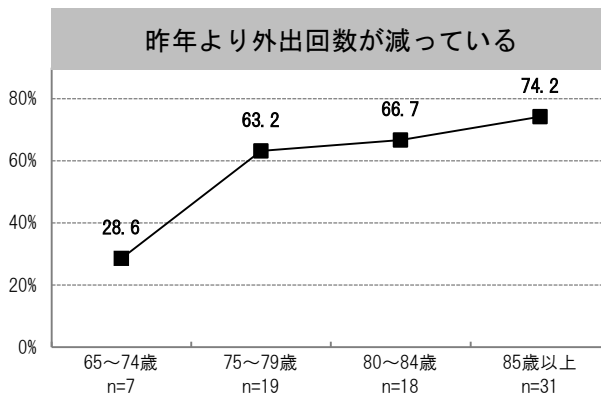
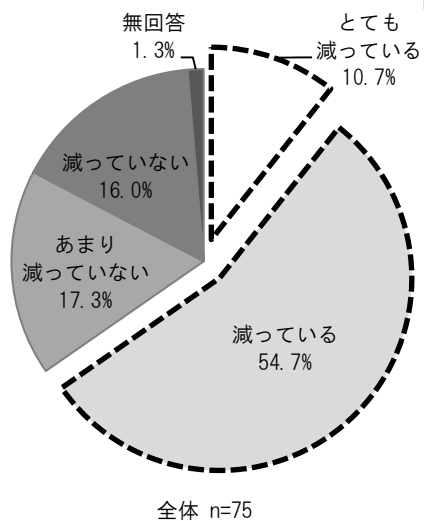
○要支援者の週に1回以上の外出の有無では、「週1回」(33.3%)と「ほとんど外出しない」(17.3%)を合わせた50.6%の方が週1回以下と回答しています。その該当者の年齢階級別では85歳以上で割合が高くなっています。

問2-(6) 週に1回以上の外出の有無



○要支援者の昨年と比べた外出の頻度の減少では、「減っている」(54.7%)と「とても減っている」(10.7%)を合わせた65.4%の方が回答しています。その該当者の年齢階級別では加齢とともに割合が高くなっています。

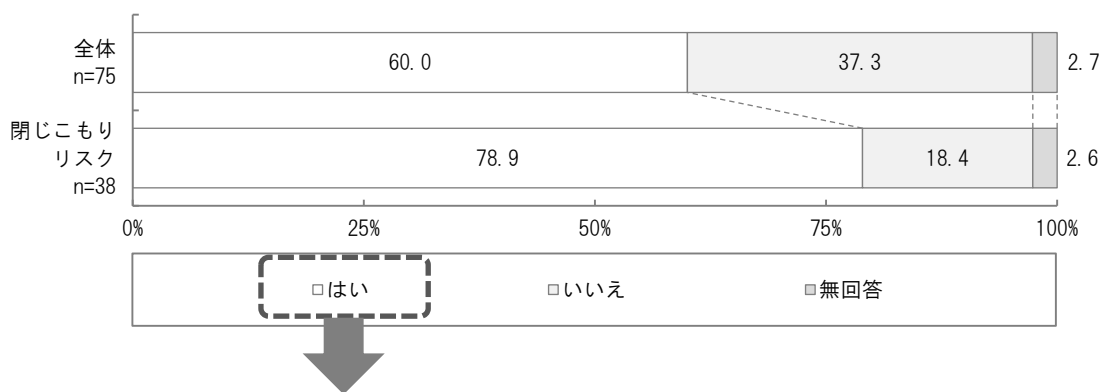
問2-(7) 昨年と比べた外出の頻度



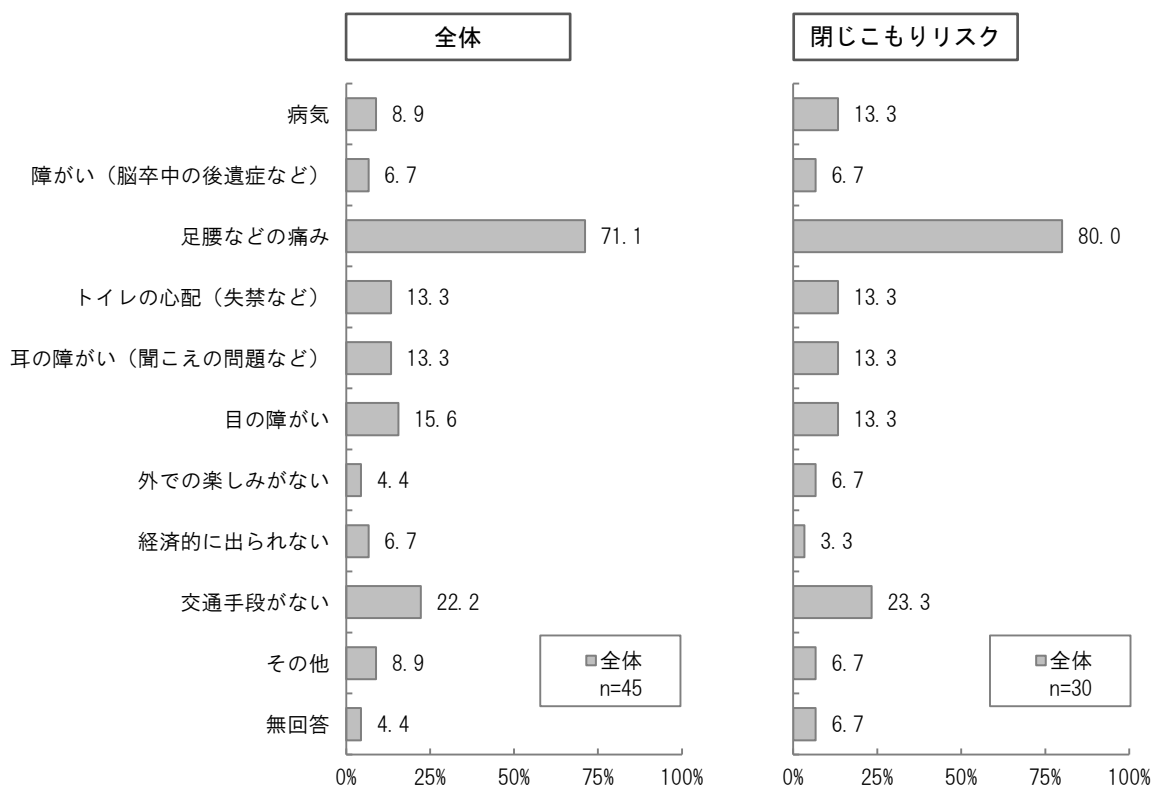
○要支援者が外出を控えているかをみると、全体では60.0%の方が外出を控えていると回答しています。一方、閉じこもりリスク者では78.9%と前者よりも18.9%高い状況です。

○要支援者の外出を控えている理由は、両者ともに「足腰などの痛み」(71.1%・80.0%)が最も多く、次いで「交通手段がない」(22.2%・23.3%)、全体では「目の障がい」(15.6%)、「トイレの心配(失禁など)」「耳の障がい(聞こえの問題など)」(各13.3%)の順、閉じこもりリスク者では「病気」「トイレの心配(失禁など)」「耳の障がい(聞こえの問題など)」「目の障がい」(各13.3%)の順となっており、上位を占める理由に差はない状況です。

問2-(8) 外出を控えているか (×「閉じこもりリスク有」)

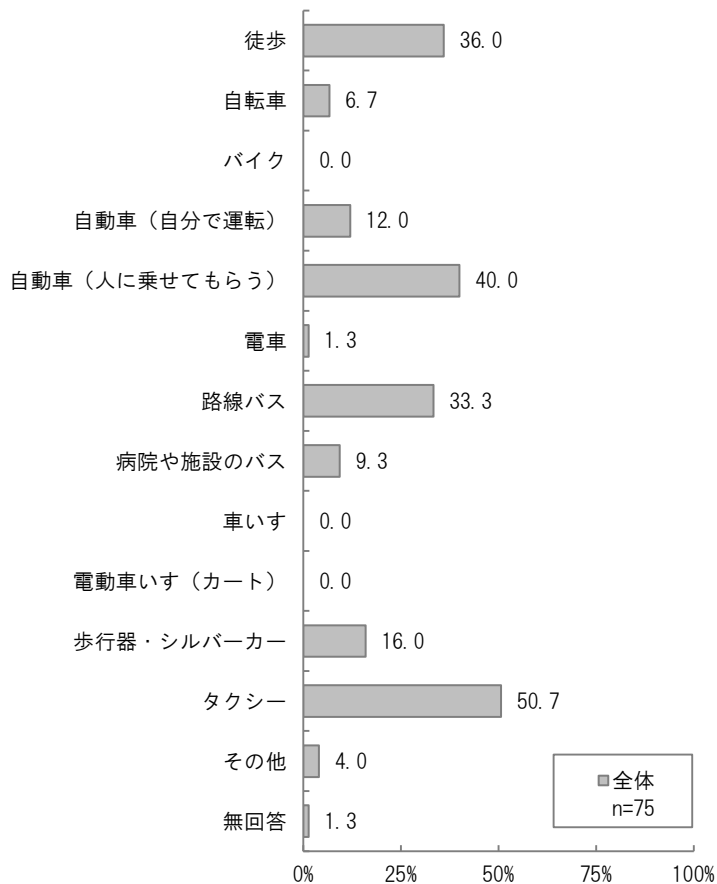


問2-(8).① 外出を控えている理由 (×「閉じこもりリスク有」)



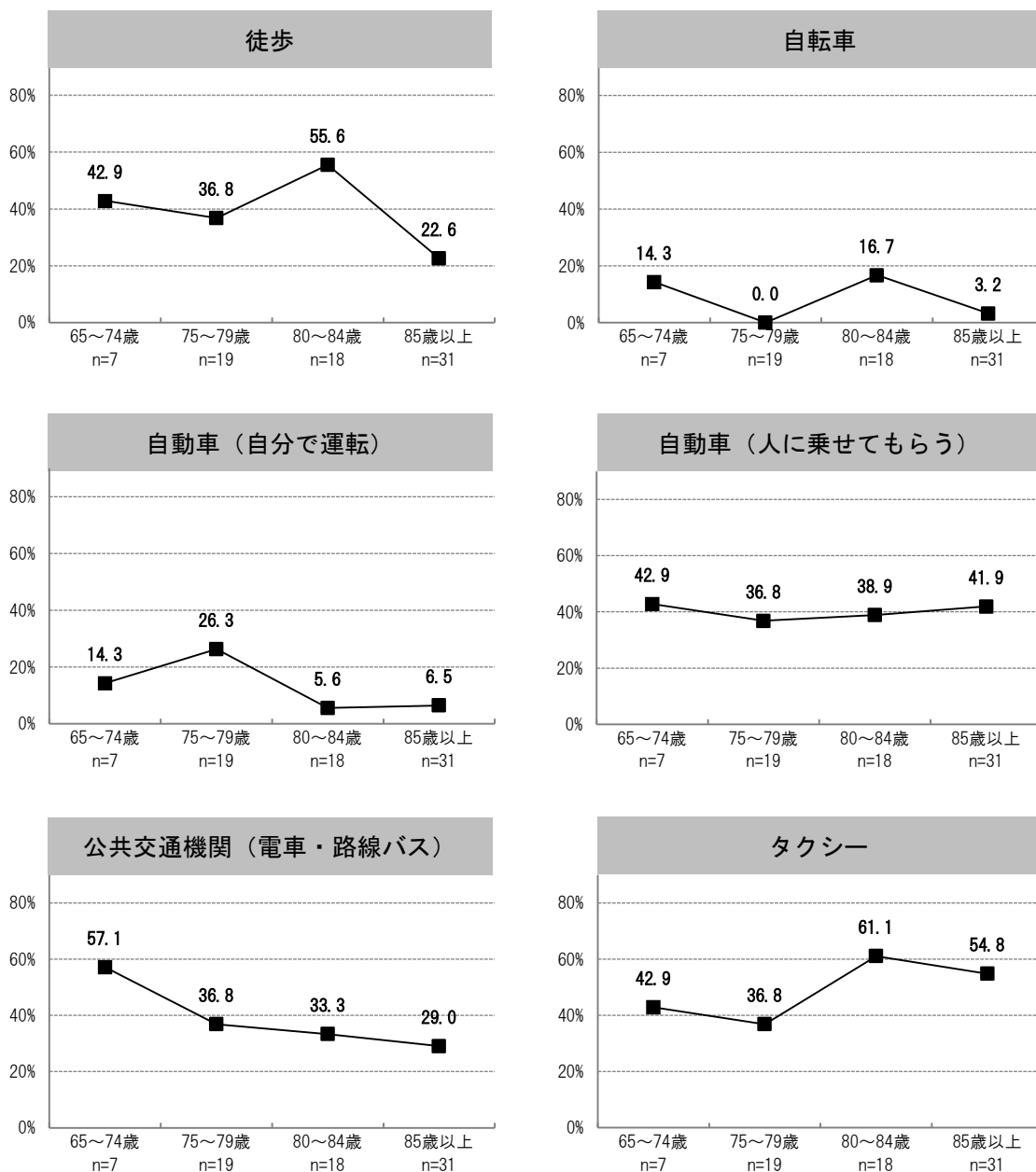
○要支援者の外出する際の移動手段は、「タクシー」(50.7%)が最も多く、次いで「自動車(人に乗せてもらう)」(40.0%)、「徒歩」(36.0%)、「路線バス」(33.3%)、「歩行器・シルバーカー」(16.0%)、「自動車(自分で運転)」(12.0%)の順となっています。

問2-(9) 外出する際の移動手段



- 「徒歩」では80～84歳で割合が高く、85歳以上で大きく減少しています。
- 「自動車（人に乗せてもらう）」では全年齢階級で40%前後の割合となっています。
- 「公共交通機関（電車・路線バス）」では加齢とともに該当者の割合が減少しています。
- 一方、「タクシー」では80～84歳で大きく割合が増加しています。

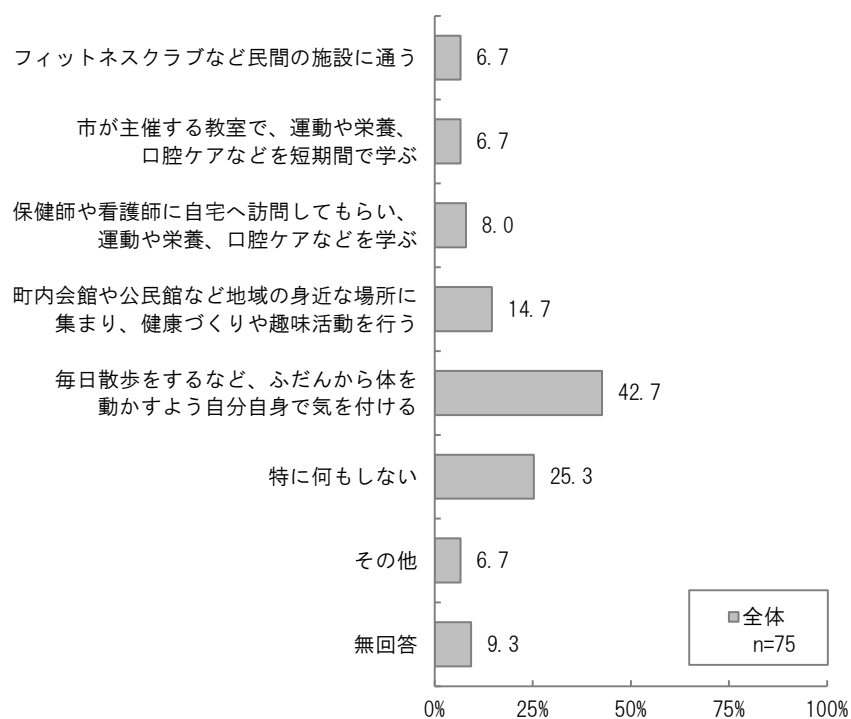
問2-(9) 性別年齢階級別移動手段（上位6位）



(3) 介護予防のための取組

○要支援者の介護予防のために参加したい取組をみると、「毎日散歩をするなど、ふだんから体を動かすよう自分自身で気を付ける」(42.7%)が最も多く、次いで「特に何もしない」(25.3%)、「町内会館や公民館など地域の身近な場所に集まり、健康づくりや趣味活動を行う」(14.7%)の順となっています。

問 2-(10) 介護予防のために参加したい取組



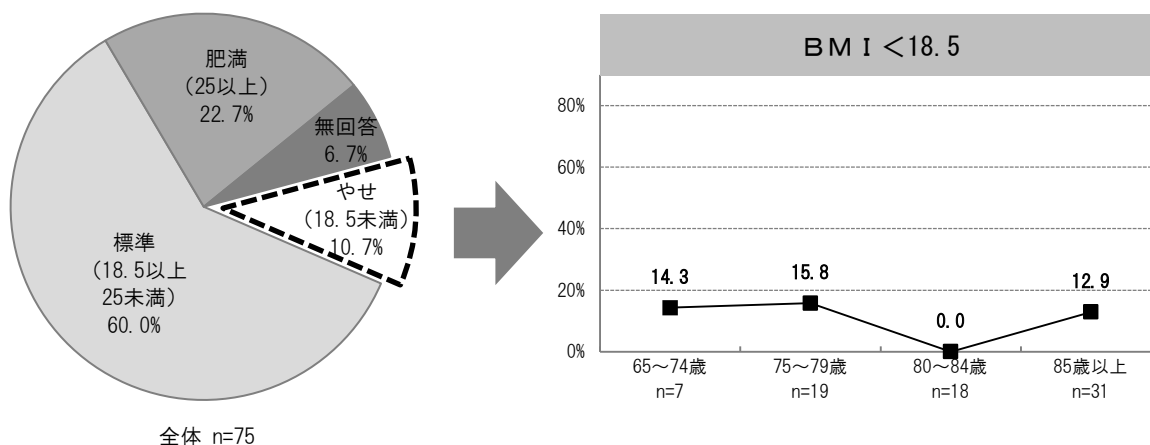
3 食べることについて

(1) 現在の体重（BMI）状況

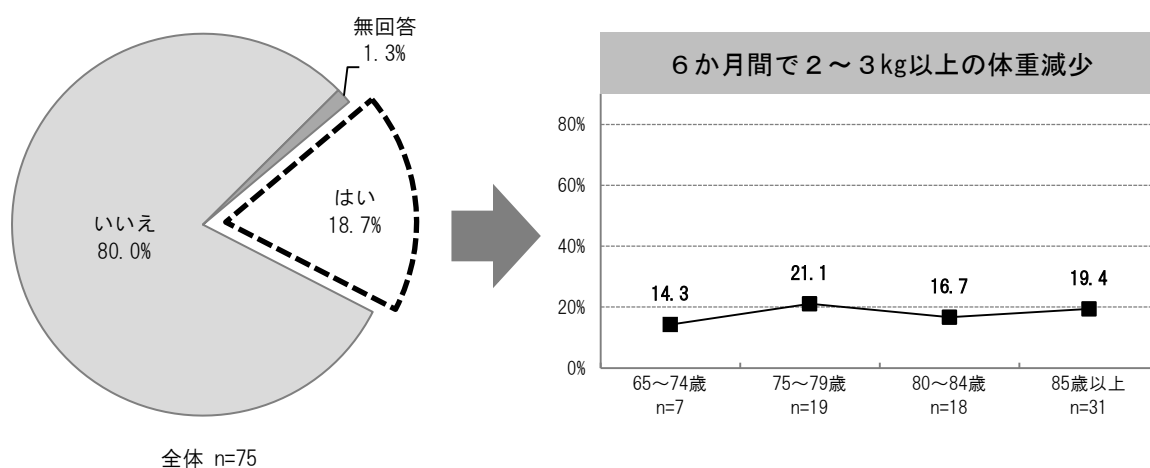
○要支援者のBMIでは、「やせ（18.5未満）」の方が10.7%います。その80～84歳を除いた該当者ではほぼ横ばいとなっています。

○要支援者の6か月間で2～3kg以上の体重減少の有無では、18.7%の方が減少したと回答しています。その該当者の年齢階級別ではほぼ横ばいとなっています。

問3-(1) BMI



問3-(8) 6か月間で2～3kg以上の体重減少の有無



(2) 歯・口腔の状況

○要支援者の歯の数と入れ歯の利用状況は、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(45.3%)と「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(12.0%)を合わせた57.3%の方が入れ歯を利用しています。

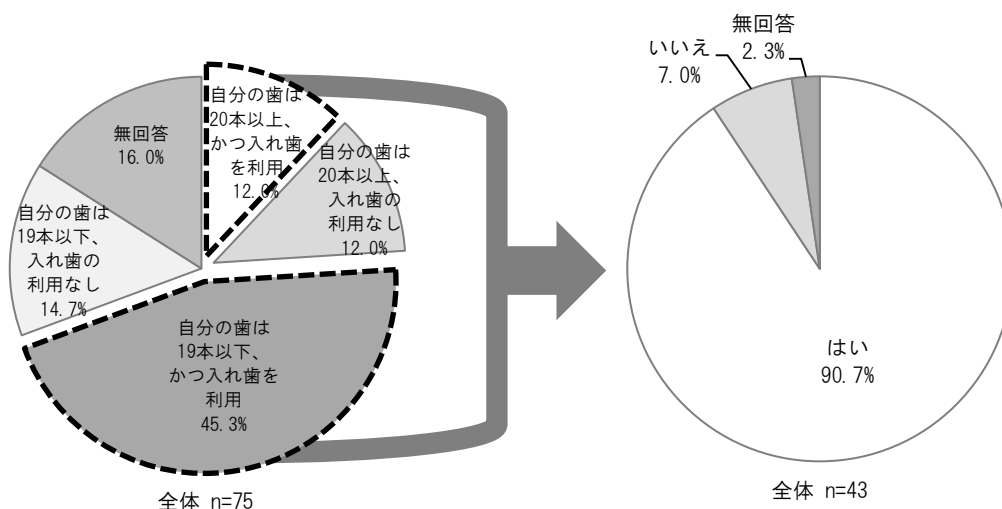
○また、毎日入れ歯の手入れをしているかでは、90.7%の方が手入れをしていると回答しています。

○要支援者の噛み合わせは良いかでは、70.7%の方が良いと回答しています。

○要支援者の歯磨きを毎日しているかでは、84.0%の方が「はい」と回答しています。

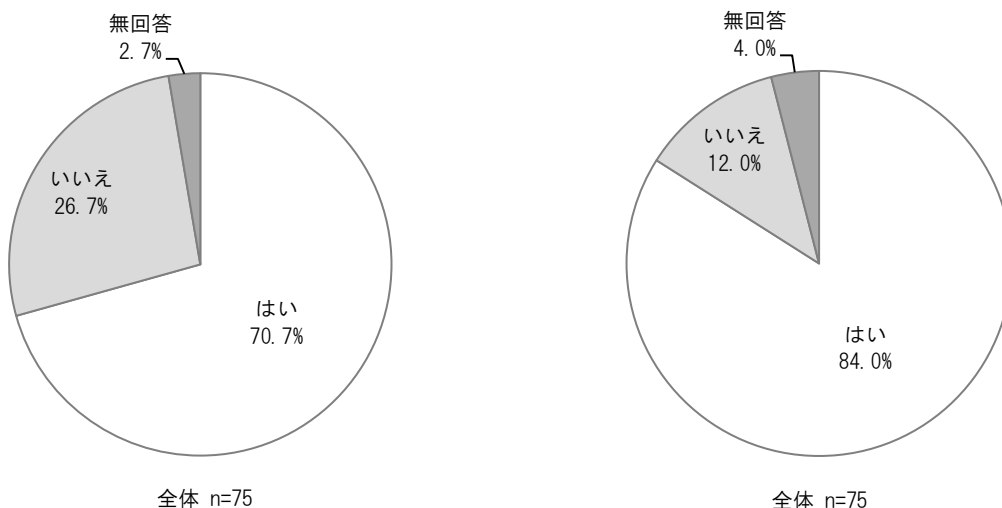
問 3-(3) 歯の数と入れ歯の利用状況

問 3-(3).① 毎日入れ歯の手入れをしているか



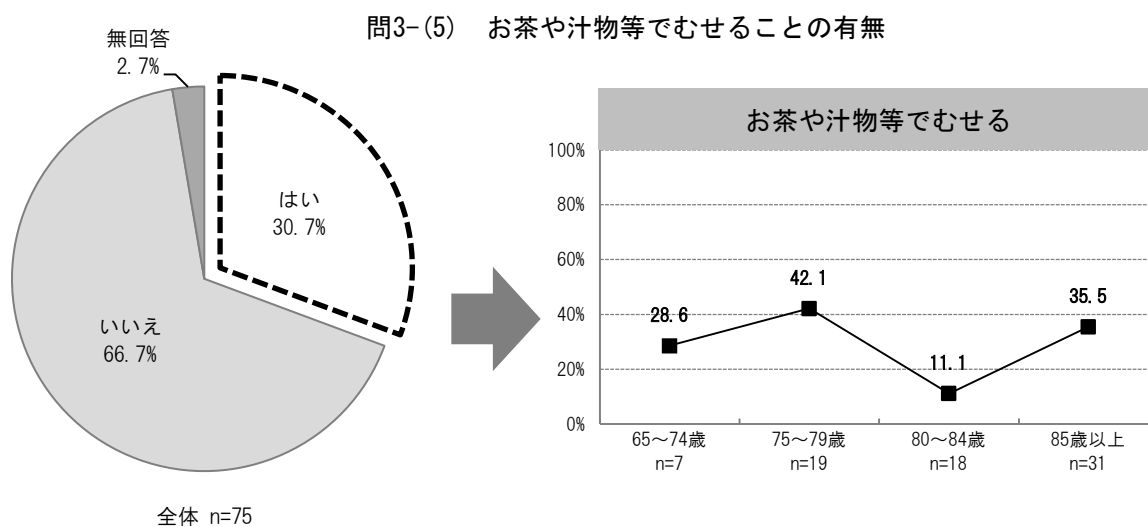
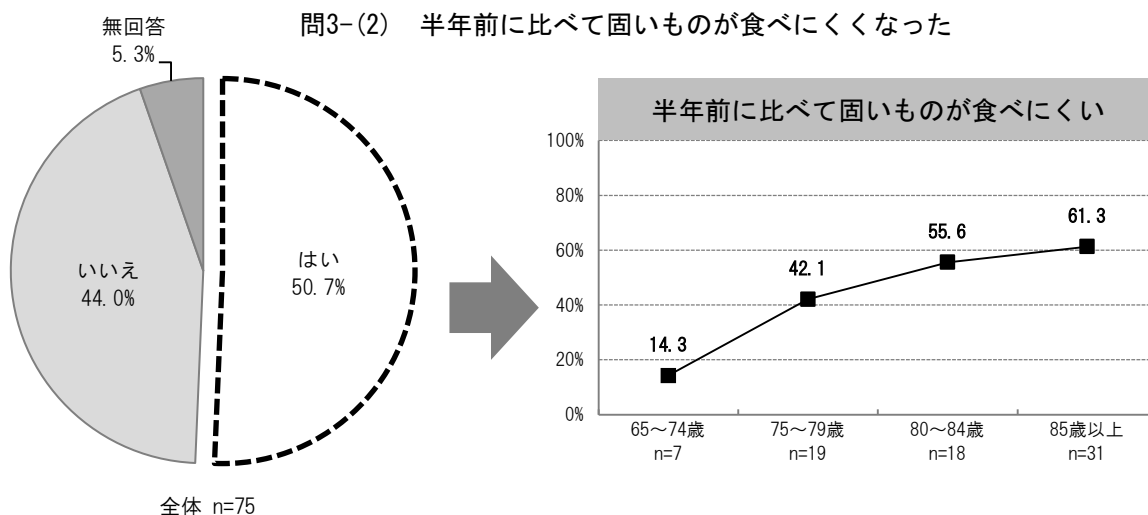
問 3-(3).② 噛み合わせは良いか

問 3-(7) 歯磨きを毎日しているか



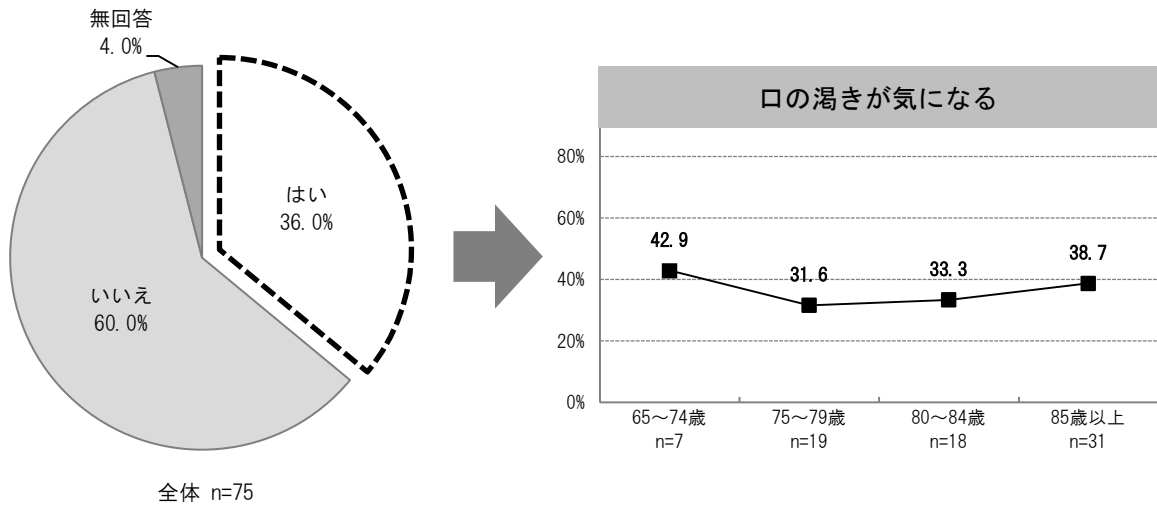
○要支援者の半年前に比べて固いものが食べにくくなったかでは、「はい」の方が50.7%います。その該当者の年齢階級別では加齢とともに割合が高くなっています。

○要支援者のお茶や汁物等でむせることの有無では、30.7%の方があると回答しています。その該当者の年齢階級別では75～79歳、85歳以上で高くなっています。



○要支援者の口の渇きが気になるかでは、36.0%の方が気になると回答しています。その該当者の年齢階級別では65～74歳で割合が高くなっています。

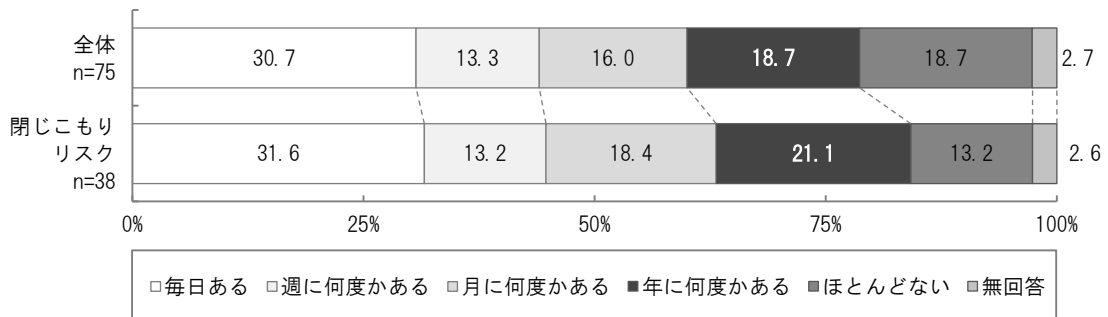
問3-(6) 口の渇きが気になるか



(3) 食事の状況

○要支援者のどなたかと食事をともしる機会の有無では、全体・閉じこもりリスク者ともに「毎日ある」(30.7%・31.6%) が最も多いものの、「ほとんどない」では閉じこもりリスク者で13.2%となっており、全体を5.5ポイント下回る状況です。

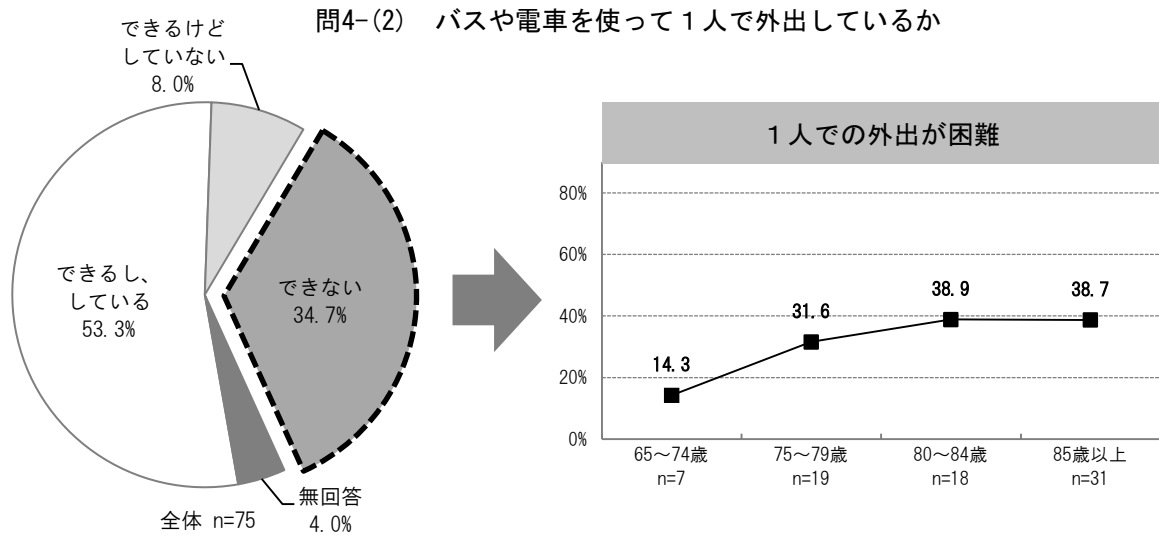
問3-(4) どなたかと食事をともしる機会の有無 (×「閉じこもりリスク有」)



4 毎日の生活について

(1) IADL（手段的日常生活動作能力）の状況

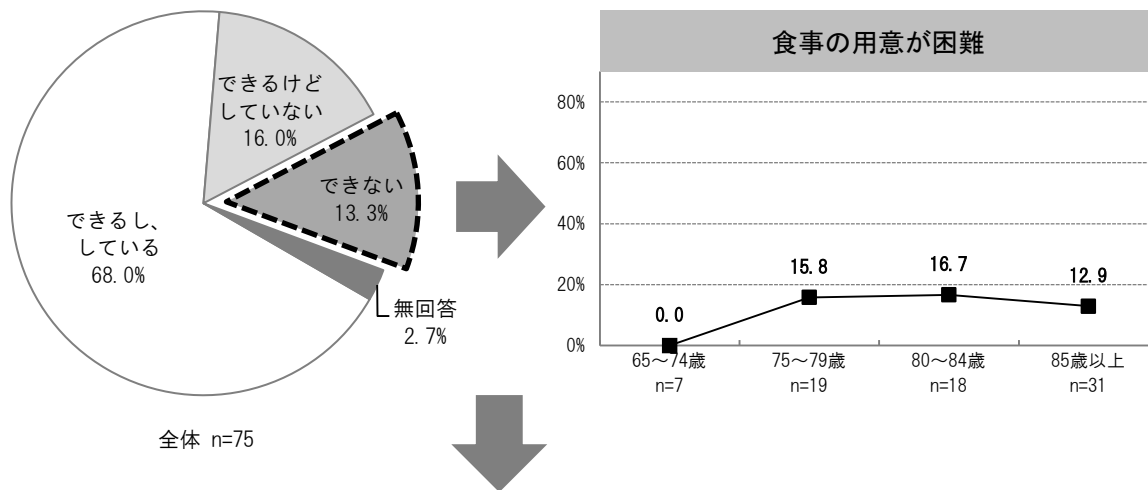
○要支援者のバスや電車を使って1人で外出しているかでは、「できない」方が34.7%います。その該当者の年齢階級別では80歳から40%程度となっています。



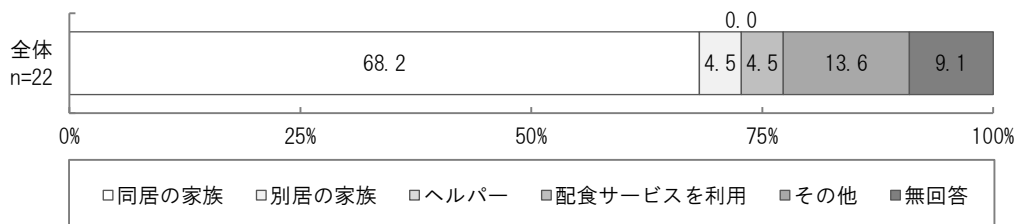
○要支援者の自分で食事の用意をしているかでは、「できない」方が13.3%います。その該当者の年齢階級別では75歳から10%台となっています。

○要支援者の食事の用意をする人は、「同居の家族」(68.2%)が最も多くなっています。また、「配食サービスの利用」の方は4.5%とわずかな状況です。

問4-(4) 自分で食事の用意をしているか



問4-(4).① 食事の用意をする人



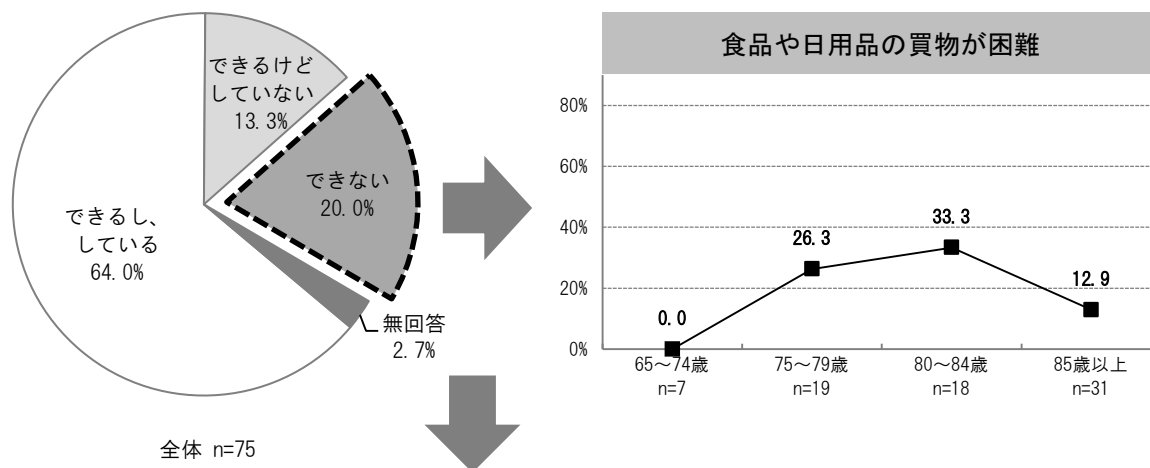
○要支援者の自分で食品・日用品の買物をしているかでは、「できない」方が20.0%います。

その該当者の年齢階級別では80～84歳で割合が高くなっています。

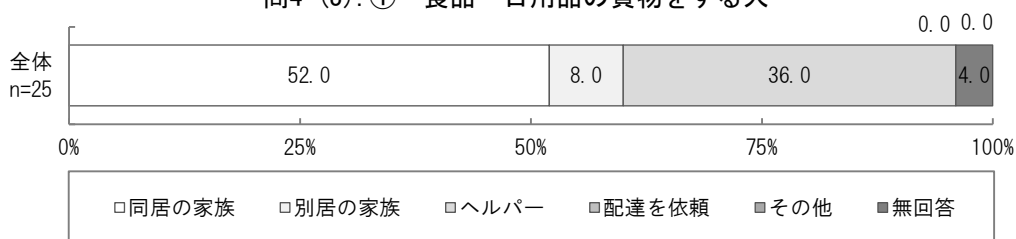
○要支援者の食品・日用品の買物をする人は、「同居の家族」(52.0%)が最も多くなっています。

○要支援者の自分で請求書の支払いをしているかでは、「できない」方が10.7%います。その該当者の年齢階級別では75～79歳から割合が高くなっています。

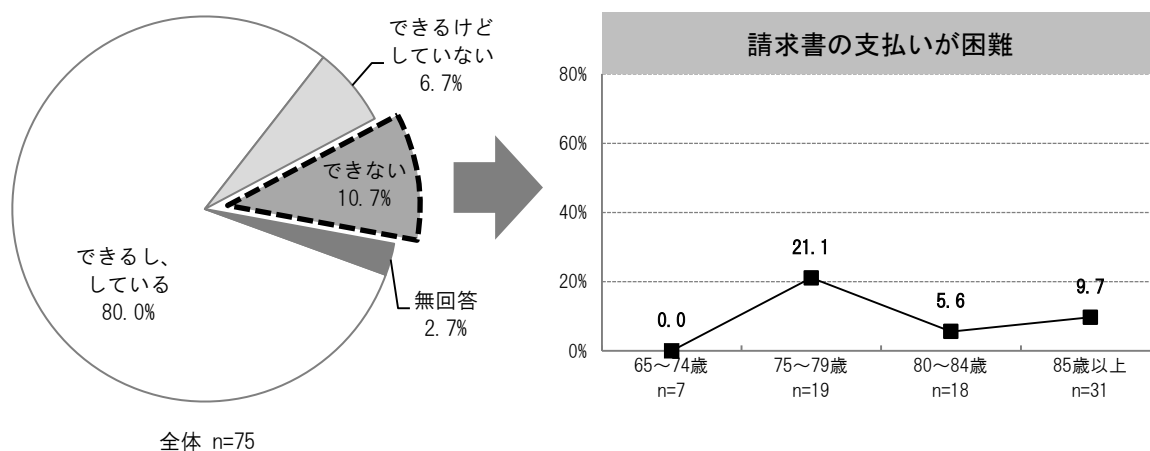
問4-(3) 自分で食品・日用品の買物をしているか



問4-(3).① 食品・日用品の買物をする人

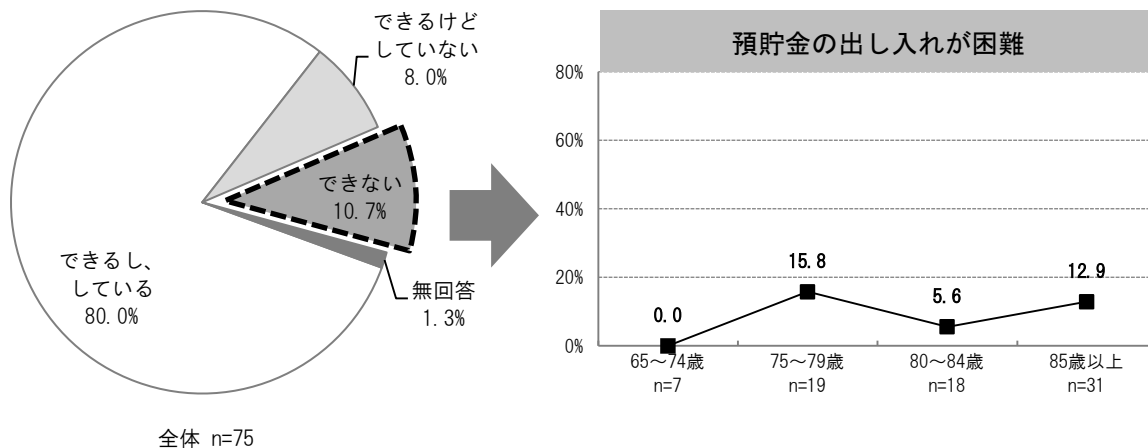


問4-(5) 自分で請求書の支払いをしているか



○要支援者の自分で預貯金の出し入れをしているかでは、「できない」方が10.7%います。その該当者の年齢階級別では75～79歳、85歳以上で割合が高くなっています。

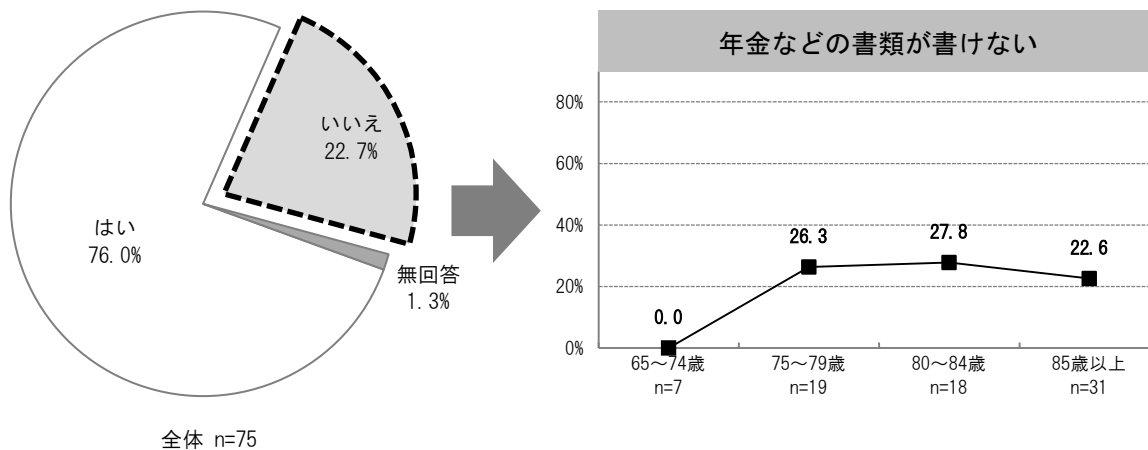
問4-(6) 自分で預貯金の出し入れをしているか



(2) 社会参加（知的能動性）の状況

○要支援者の年金などの書類が書けるかでは、22.7%の方が書けないと回答しています。その該当者の年齢階級別では75歳以上から割合が20%台となっています。

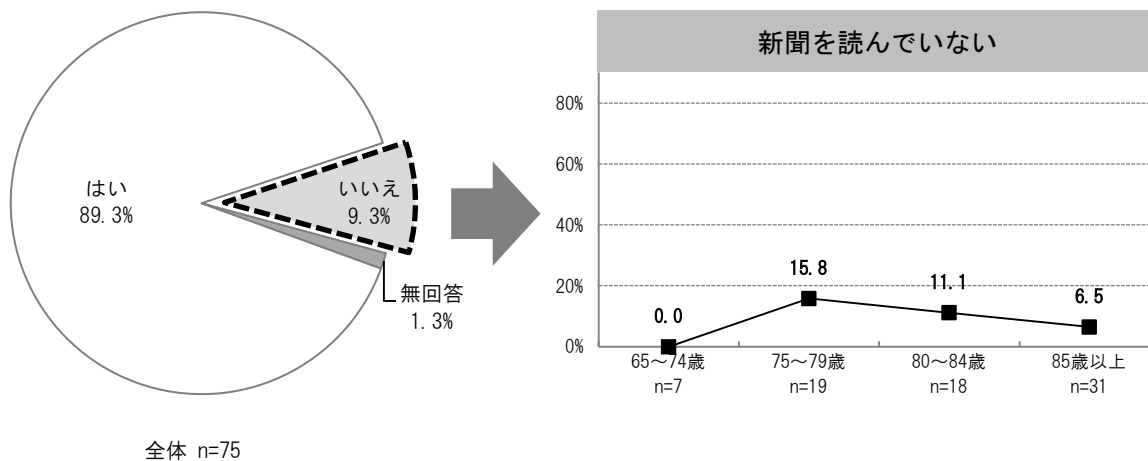
問4-(9) 年金などの書類が書けるか



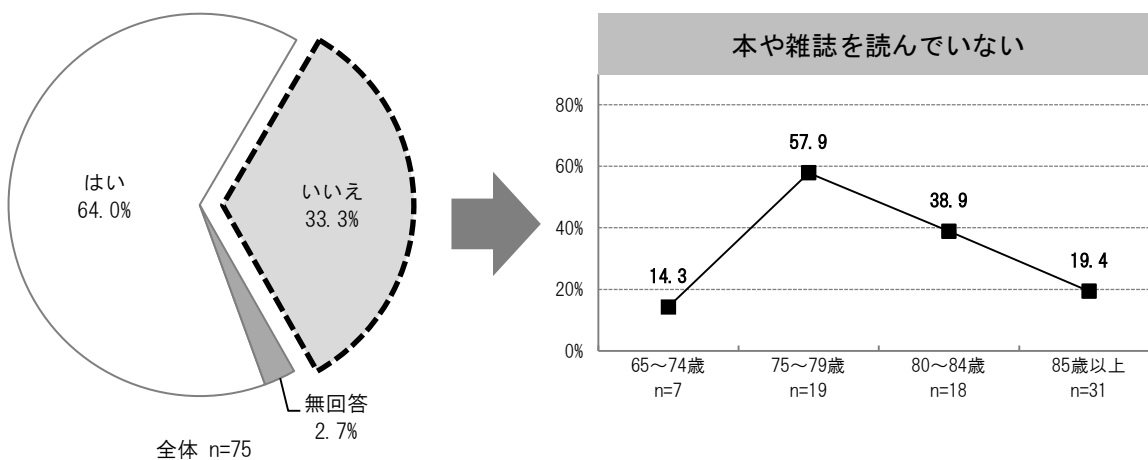
○要支援者の新聞を読んでいるかでは、「いいえ」の方が9.3%います。その該当者の年齢階級別では75～79歳から加齢とともに割合が低くなっています。

○要支援者の本や雑誌を読んでいるかでは、「いいえ」の方が33.3%います。その該当者の年齢階級別では75～79歳から加齢とともに割合が低くなっています。

問4-(10) 新聞を読んでいるか

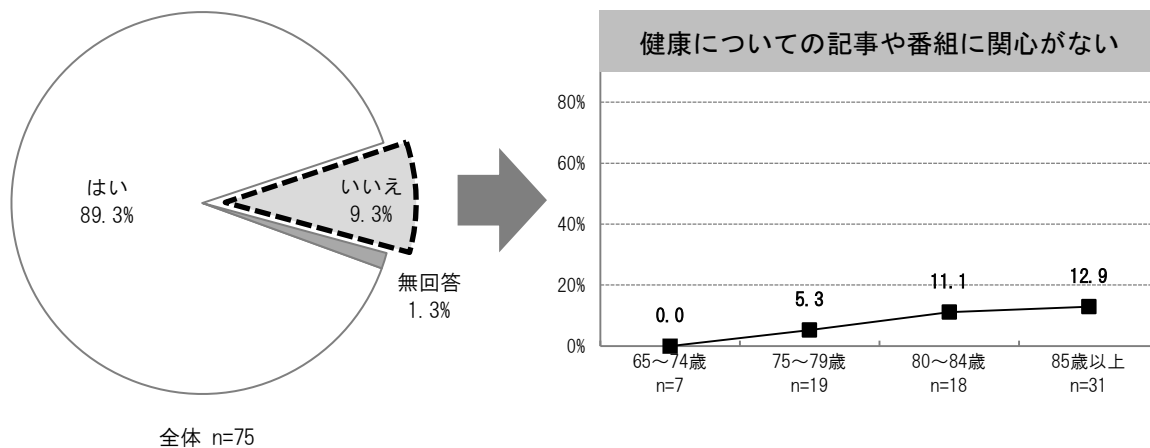


問4-(11) 本や雑誌を読んでいるか



○要支援者の健康についての記事や番組に関心があるかでは、「いいえ」の方が9.3%います。その該当者の年齢階級別では加齢とともに割合が高くなっています。

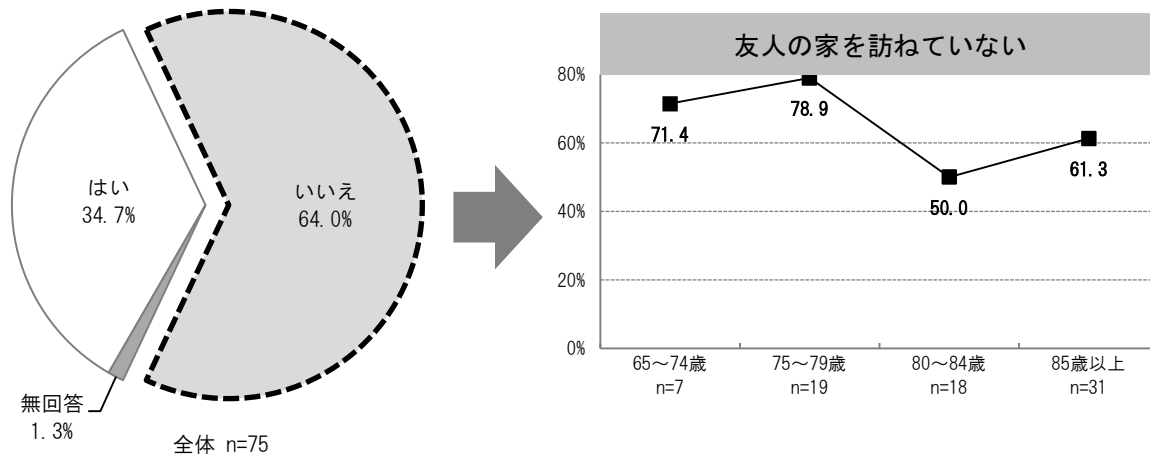
問4-(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか



(3) 社会参加（社会的役割）の状況

○要支援者の友人の家を訪ねているかでは、「いいえ」の方が64.0%います。その該当者の年齢階級別では65~79歳で割合が70%台となっています。

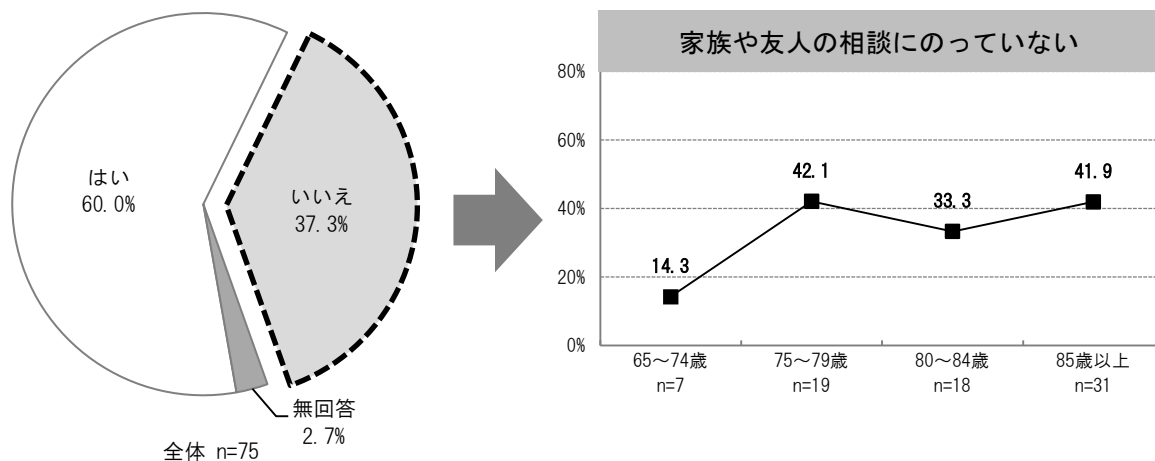
問4-(13) 友人の家を訪ねているか



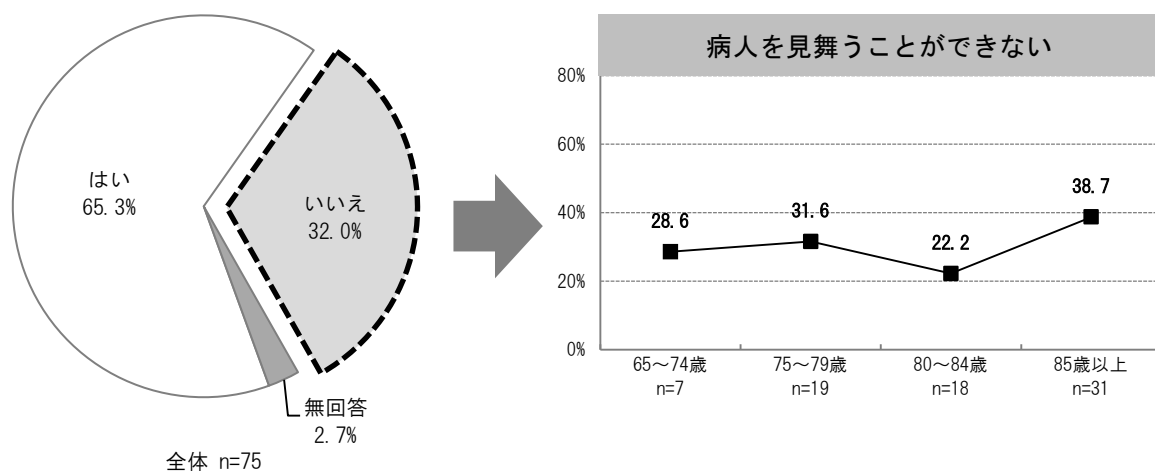
○要支援者の家族や友人の相談にのっているかでは、「いいえ」の方が37.3%います。その該当者の年齢階級別では75歳以上で割合が高くなっています。

○要支援者の病人を見舞うことができるかでは、「いいえ」の方が32.0%います。その該当者の年齢階級別では85歳以上で割合が高くなっています。

問4-(14) 家族や友人の相談にのっているか

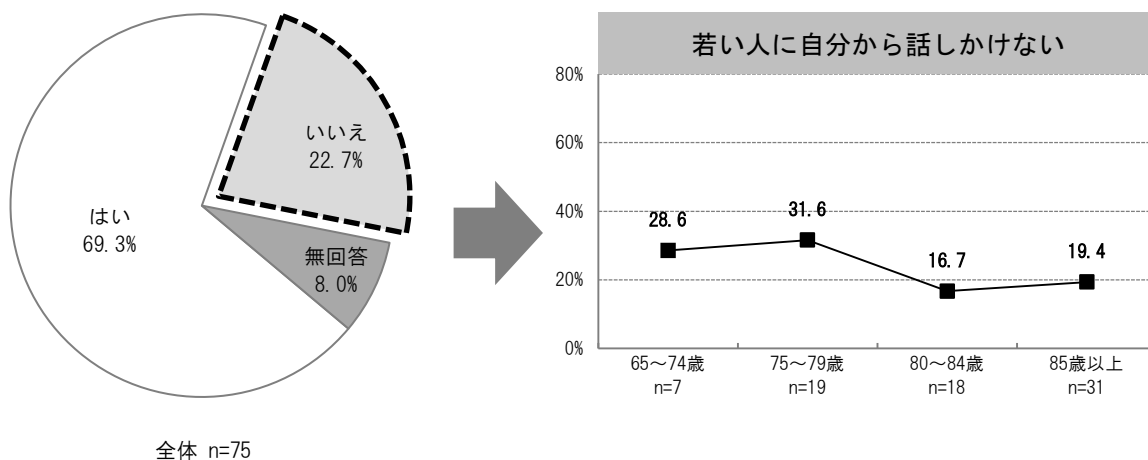


問4-(15) 病人を見舞うことができるか



○要支援者の若い人に自分から話しかけることはあるかでは、「いいえ」の方が22.7%います。その該当者の年齢階級別では65～79歳では30%前後となっています。

問4-(16) 若い人に自分から話しかけることはあるか

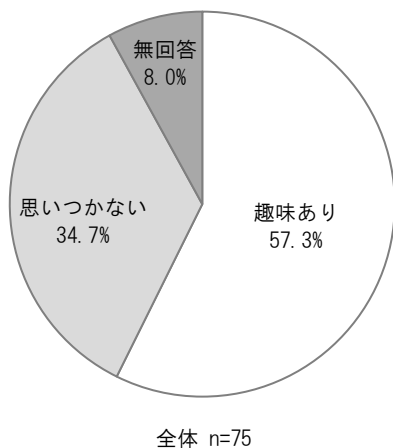


(4) こころの健康状態

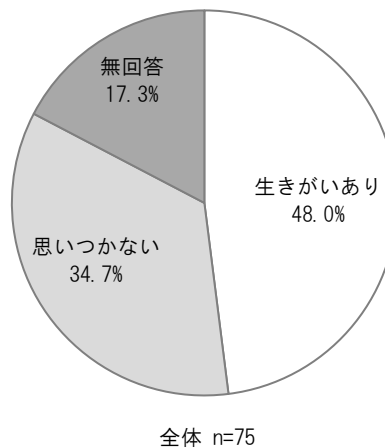
○要支援者の趣味の有無では、57.3%の方があると回答しています。

○要支援者の生きがいの有無では、48.0%の方があると回答しています。

問4-(17) 趣味はあるか



問4-(18) 生きがいはあるか

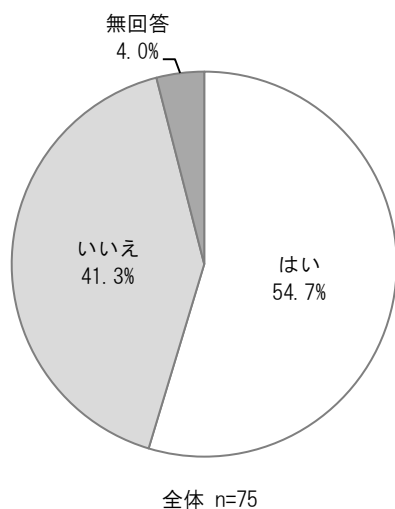


○要支援者のこの1か月間、気分が沈んだりすることの有無では、54.7の方があったと回答しています。

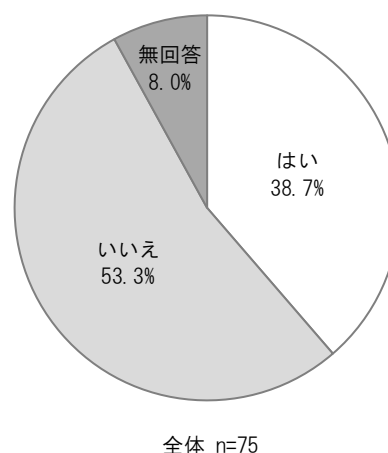
○要支援者のこの1か月間、物事に対して心から楽しめない感じの有無では、38.7の方があったと回答しています。

○要支援者の現在の主観的幸福感では、「5点」(32.0%)が最も多く、次いで「7点」(20.0%)、「6点」(10.7%)の順となっています。

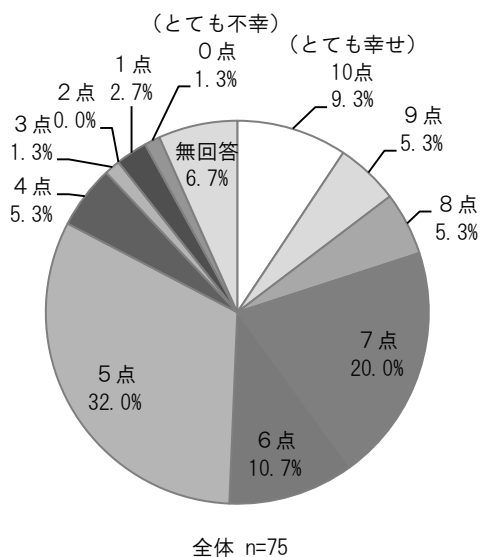
問7-(3) この1か月間、気分が沈んだりする



問7-(4) この1か月間、物事に対して心から楽しめない



問7-(2) 現在どの程度幸せですか

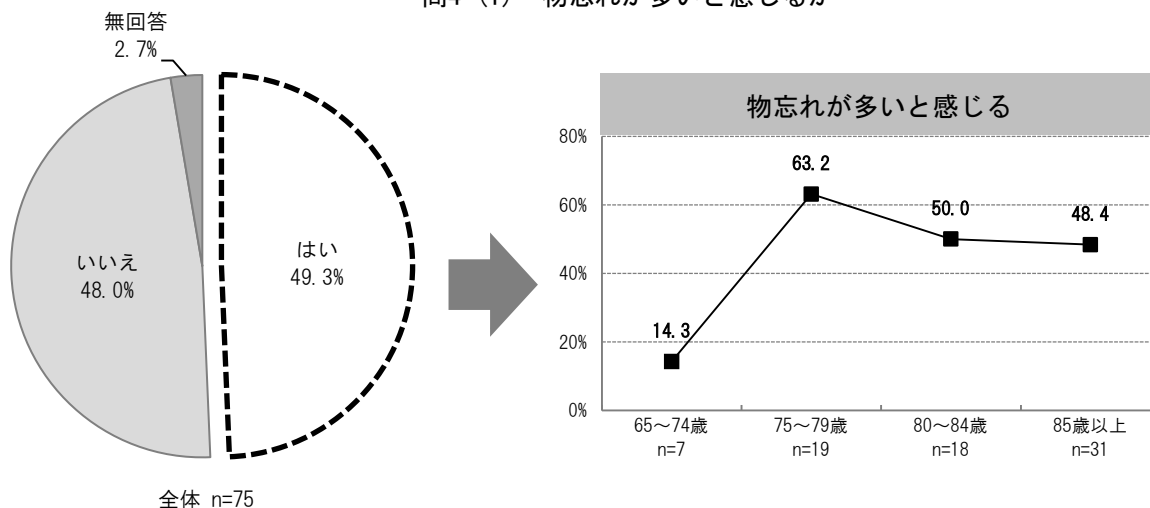


(5) 物忘れの状況

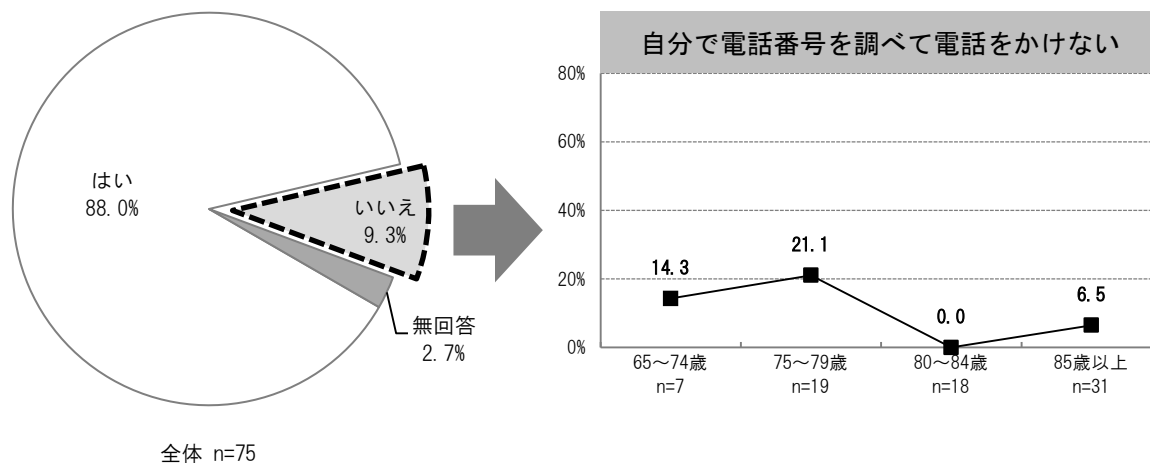
○要支援者の物忘れが多いと感じるかでは、「はい」の方が49.3%います。その該当者の年齢階級別では75～79歳で割合が高くなっています。

○要支援者の自分で電話番号を調べて電話をかけるかでは、「いいえ」の方が9.3%います。その該当者の年齢階級別では75～79歳で割合が高くなっています。

問4-(1) 物忘れが多いと感じるか

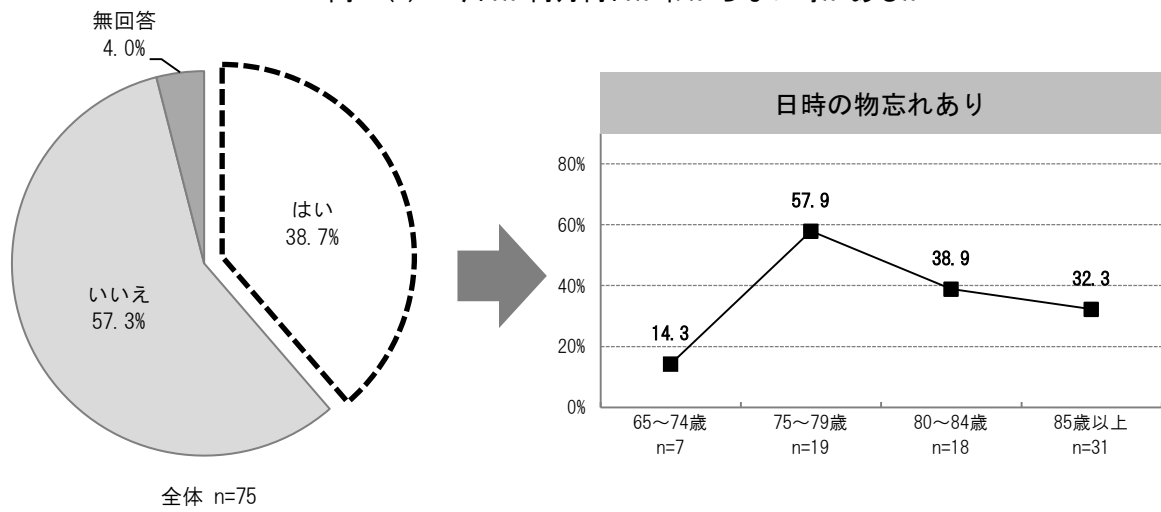


問4-(7) 自分で電話番号を調べて、電話をかけるか



○要支援者の今日が何月何日かわからない時があるかでは、38.7%の方があると回答しています。その該当者の年齢階級別では75～79歳で割合が高くなっています。

問4-(8) 今日が何月何日かわからない時があるか

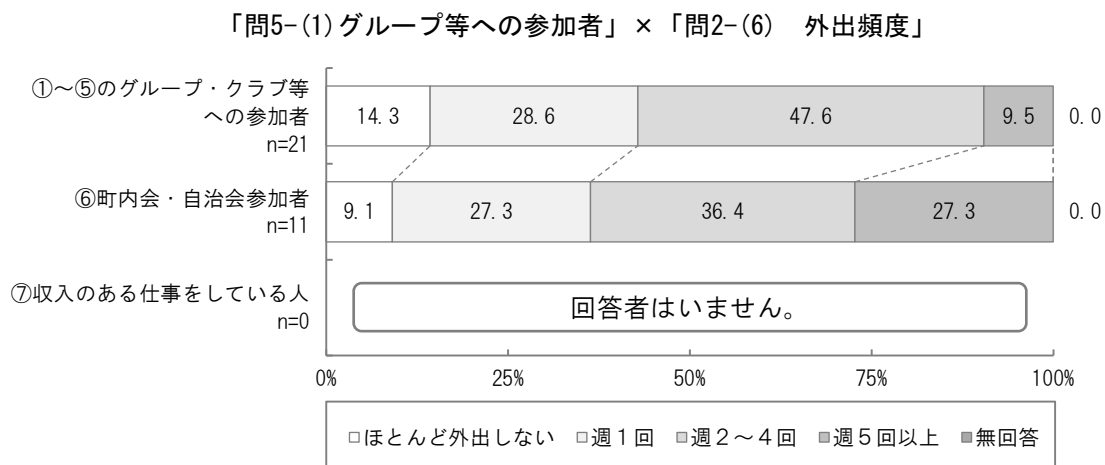
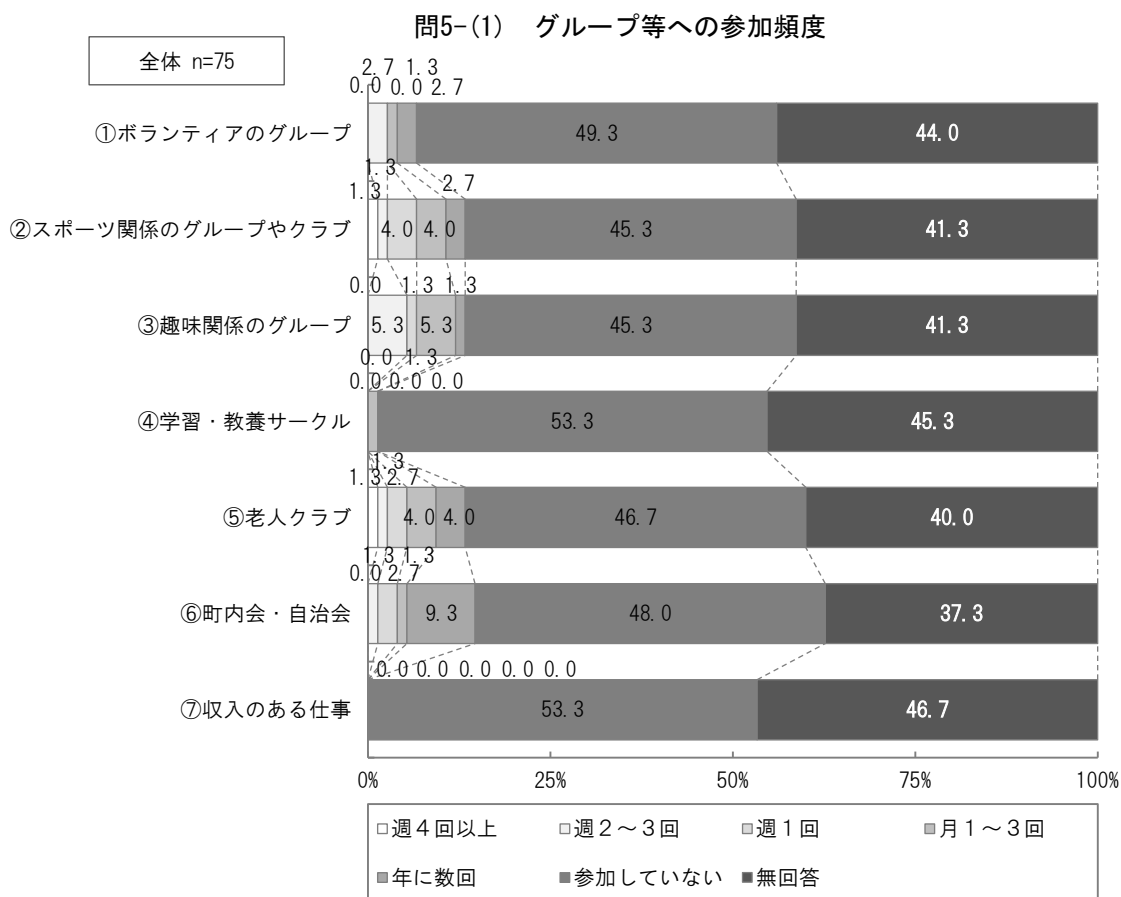


5 地域での活動について

(1) グループ活動等の状況

○要支援者のグループ等への参加頻度をみると、週1回以上の就労または参加している方は「②スポーツ関係のグループやクラブ」「③趣味関係のグループ」（各6.6%）となっています。

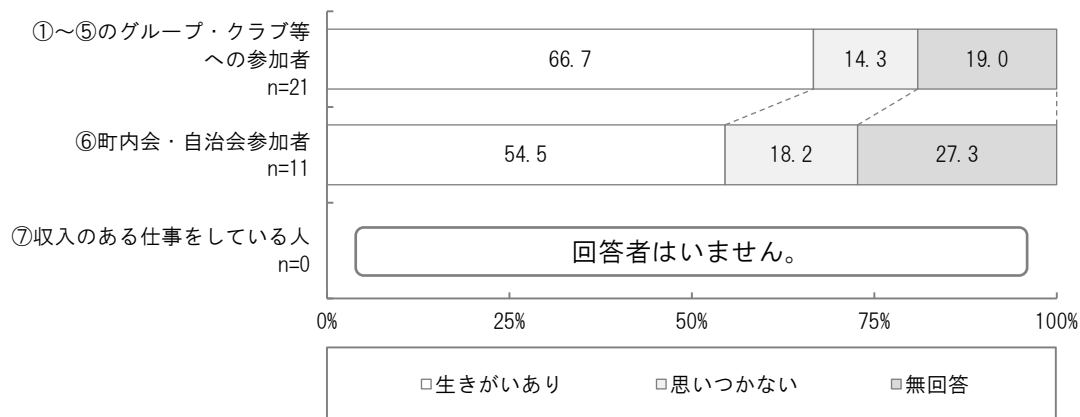
○また、グループ等への参加者の外出頻度では、いずれの参加者も週1回以下の方は1割前後となっています。



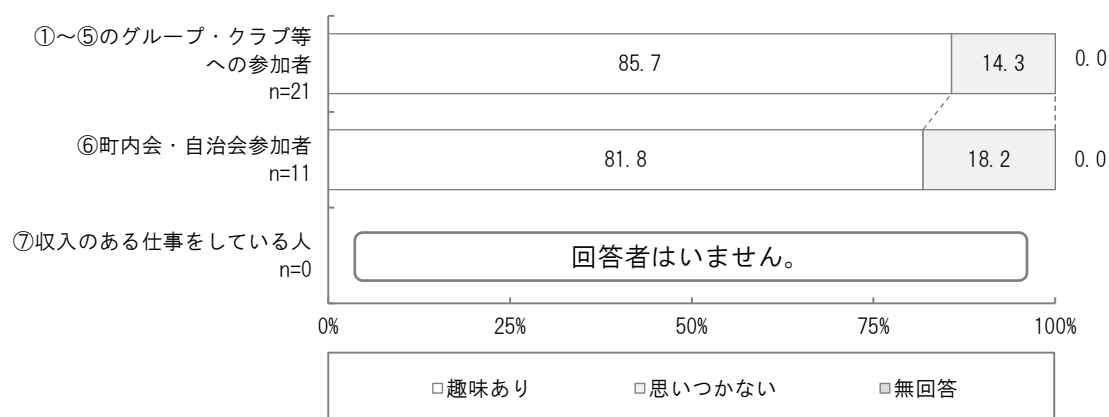
○要支援者のグループ等への参加者の生きがいの有無では、いずれの参加者も5割以上が生きがいがあると回答しています。

○要支援者のグループ等への参加者の趣味の有無では、いずれの参加者も8割以上が趣味があると回答しています。

「問5-(1) グループ等への参加者」 × 「問4-(18) 生きがいの有無」



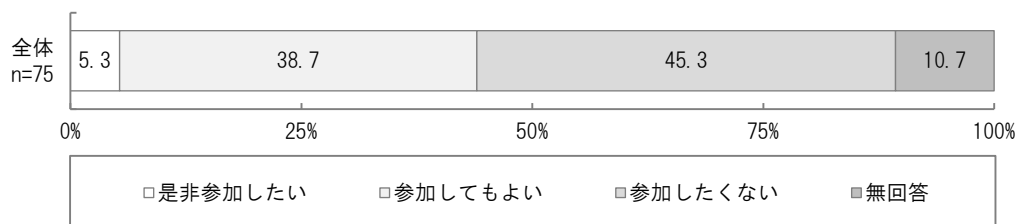
「問5-(1) グループ等への参加者」 × 「問4-(17) 趣味の有無」



(2) 地域づくりに対する参加意向

○要支援者の参加者としてグループ活動等に参加してみたいかでは、「是非参加したい」(5.3%)と「参加してもよい」(38.7%)を合わせた44.0%の方が参加の意向です。

問5-(2) 参加者としてグループ活動等に参加してみたいか

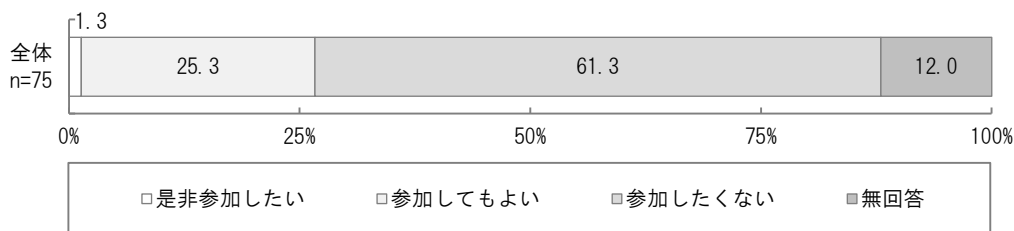


○要支援者の企画・運営としてグループ活動等に参加してみたいかでは、「是非参加したい」(1.3%)と「参加してもよい」(25.3%)を合わせた26.6%の方が参加の意向です。一方、「参加したくない」は6割以上を占めています。

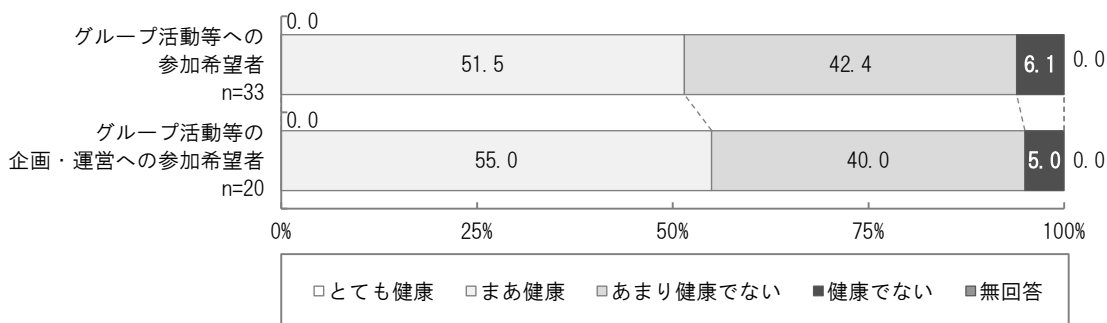
○要支援者のグループ活動等への参加希望者と企画・運営への参加希望者の健康感をみると、両者とも「まあ健康」(51.5%・55.0%)が最も多くなっています。なお、「あまり健康でない」では後者が前者を2.4ポイント下回っています。

○要支援者のグループ活動等への参加希望者と企画・運営への参加希望者の生きがいの有無では、「生きがいあり」で前者が54.5%、後者が50.0%と後者が4.5ポイント下回っています。

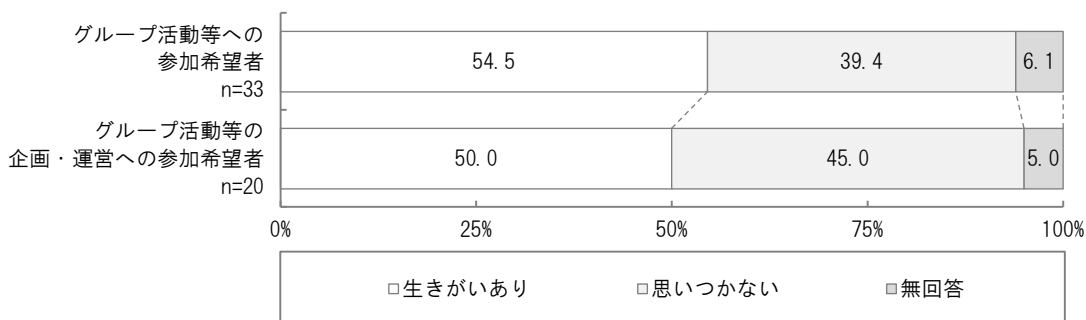
問5-(3) 企画・運営としてグループ活動等に参加してみたいか



「問5-(2) 参加希望者」・「問5-(3) 参加希望者」 × 「問7-(1) 主観的健康観」

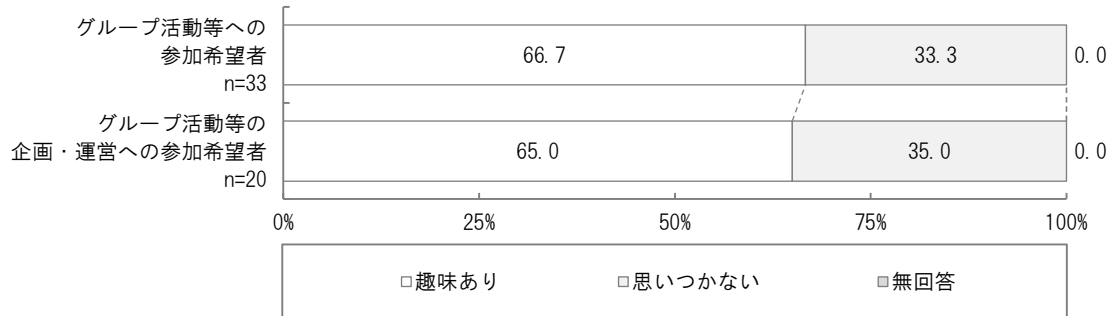


「問5-(2) 参加希望者」・「問5-(3) 参加希望者」 × 「問4-(18) 生きがいの有無」



○要支援者のグループ活動等への参加希望者と企画・運営への参加希望者の趣味の有無では、「趣味あり」で前者が66.7%、後者が65.0%と後者が1.7ポイント下回っています。

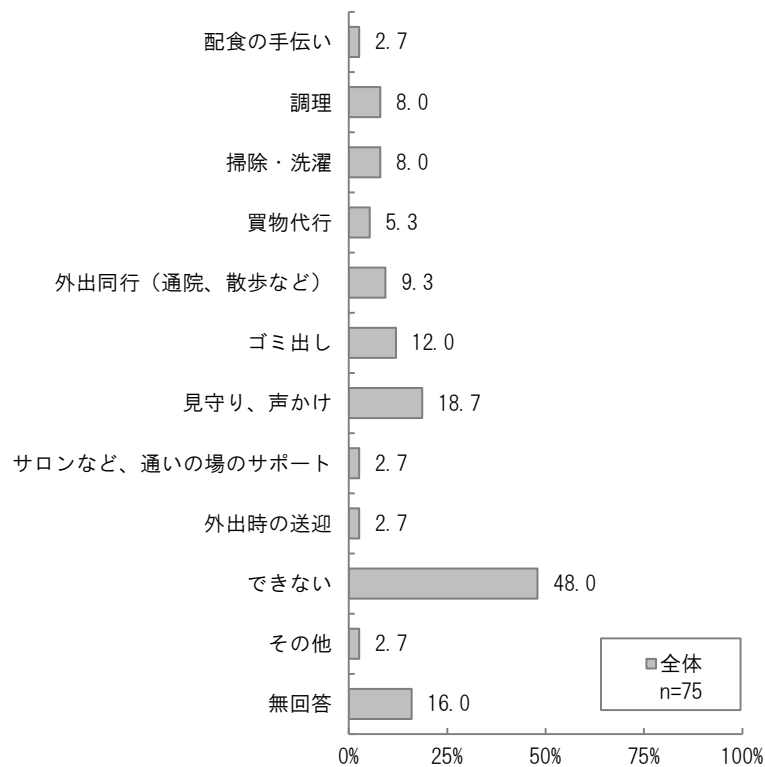
「問5-(2) 参加希望者」・「問5-(3) 参加希望者」 × 「問4-(17) 趣味の有無」



(3) 地域住民が生活支援サービスとして支援できるもの

○要支援者の地域でできる支援は、「見守り・声かけ」(18.7%)、「ゴミ出し」(12.0%)の順となっています。また、「できない」は48.0%となっています。

問5-(4) 地域でできる支援

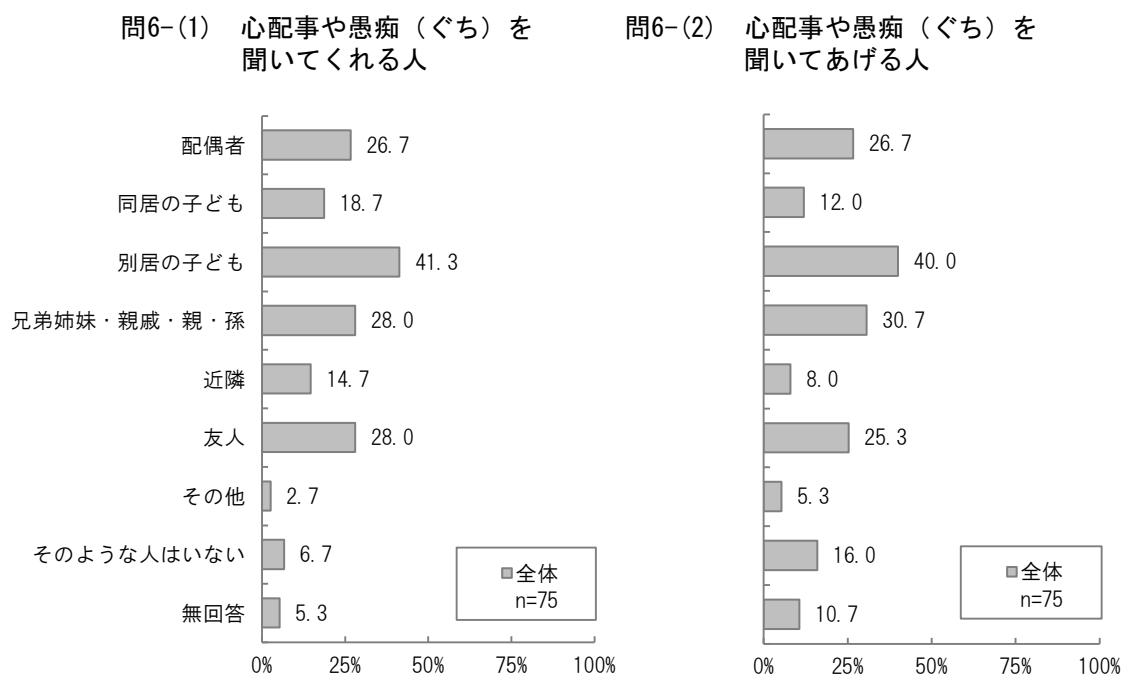


6 たすけあいについて

(1) 困った際に頼る相手または頼られる相手

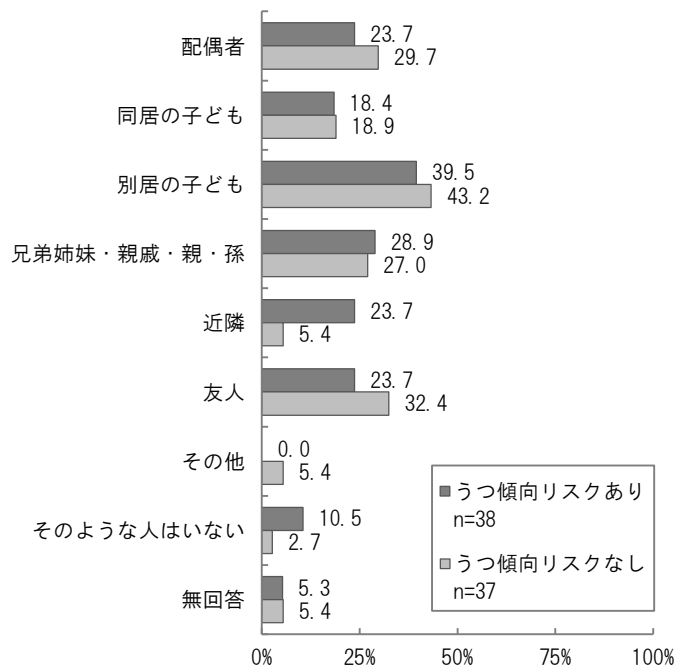
○要支援者の心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人は、「別居の子ども」（41.3%）が最も多く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」「友人」（各28.0%）、「配偶者」（26.7%）の順となっています。一方、「そのような人はいない」方は6.7%います。

○要支援者の心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人は、「別居の子ども」（40.0%）が最も多く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」「友人」（30.7%）、「配偶者」（26.7%）、「友人」（25.3%）の順となっています。一方、「そのような人はいない」方は16.0%います。



○要支援者の心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人をうつ傾向リスクのあり・なし別にみると、両者ともに「別居の子ども」（39.5%・43.2%）が最も多く、前者では次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（28.9%）、「配偶者」「近隣」「友人」（各23.7%）を順に挙げ、後者では「友人」（32.4%）、「配偶者」（29.7%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（27.0%）を順に挙げています。一方、「そのような人はいない」は前者が10.5%、後者が2.7%と前者が7.8ポイント上回っています。

「問6-(1) 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人」×「うつ傾向リスク有無」

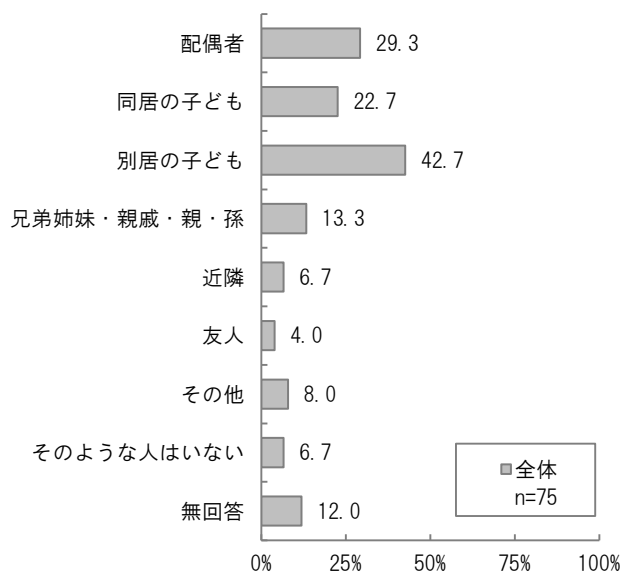


○要支援者の病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人は、「別居の子ども」(42.7%)が最も多く、次いで「配偶者」(29.3%)、「同居の子ども」(22.7%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(13.3%)の順となっています。

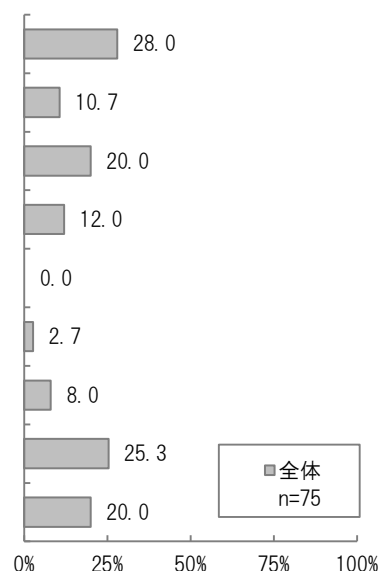
○要支援者の看病や世話をしてあげる人は、「配偶者」(28.0%)が最も多く、次いで「別居の子ども」(20.0%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(12.0%)、「同居の子ども」(10.7%)の順となっています。

○要支援者の家族や友人・知人以外何かあったときに相談する相手は、「ケアマネジャー」(61.3%)が最も多く、次いで「地域包括支援センター・役所・役場」(28.0%)、「医師・歯科医師・看護師」(25.3%)、「社会福祉協議会・民生委員」(17.3%)の順となっています。また、「そのような人はいない」方は13.3%います。

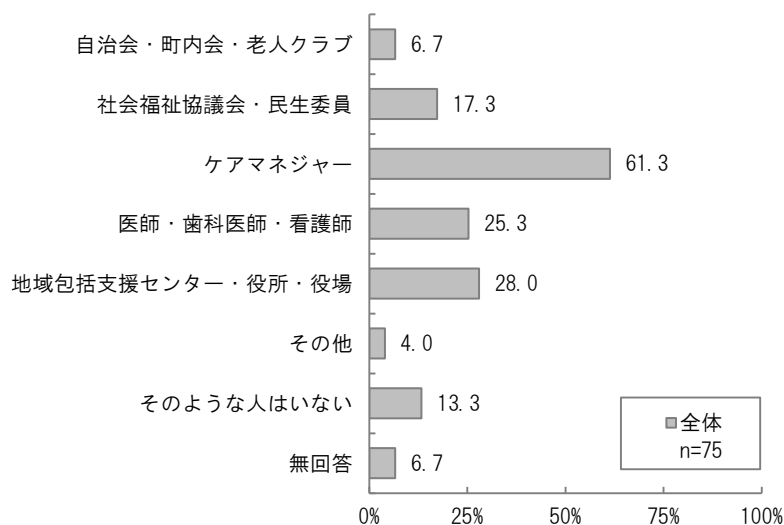
問 6-(3) 病気で数日間寝込んだときに、
看病や世話をしてくれる人



問 6-(4) 看病や世話をしてあげる人



問6-(5) 家族や友人・知人以外何かあったときに相談する相手



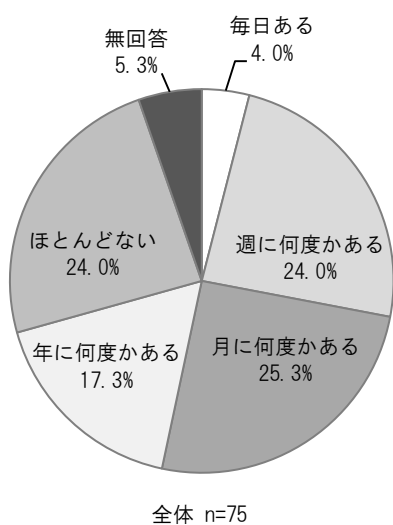
(2) 友人・知人との交流状況

○要支援者の友人・知人と会う頻度は、「月に何度かある」(25.3%)が最も多く、次いで「週に何度かある」「ほとんどない」(各24.0%)となっています。

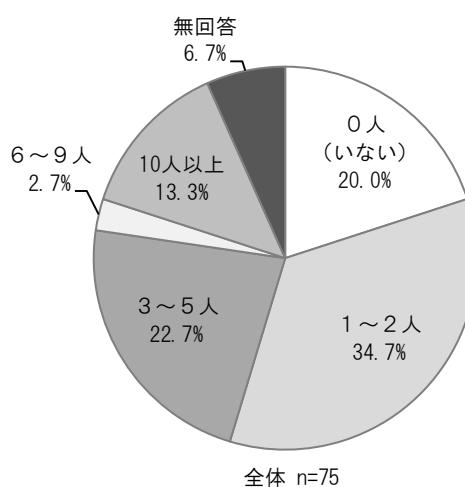
○要支援者の1か月間、何人の友人・知人と会ったかでは、「1～2人」(34.7%)が最も多く、次いで「3～5人」(22.7%)となっています。

○要支援者のよく会う友人・知人はどんな関係の人かは、「近所・同じ地域の人」(56.0%)が最も多く、次いで「趣味や関心が同じ友人」(25.3%)、「仕事での同僚・元同僚」(18.7%)、「学生時代の友人」(12.0%)の順となっています。

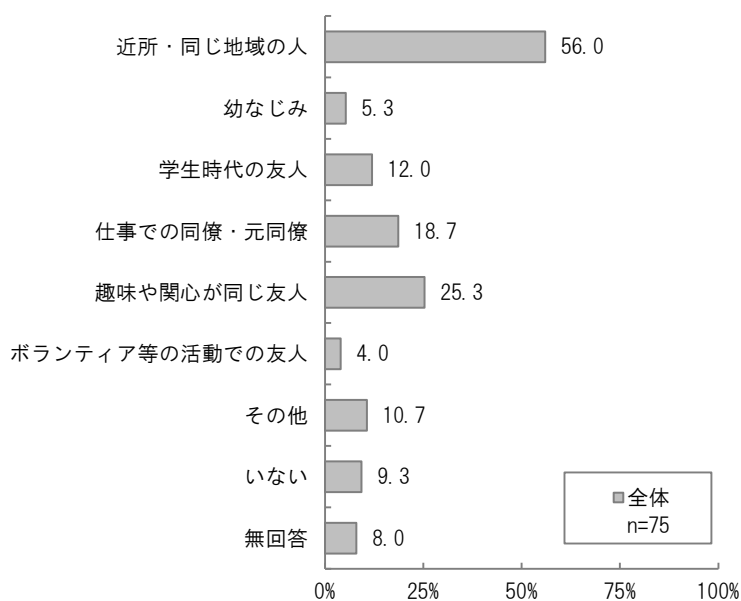
問 6-(6) 友人・知人と会う頻度



問 6-(7) 何人の友人・知人と会ったか (最近1か月間)



問6-(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人か

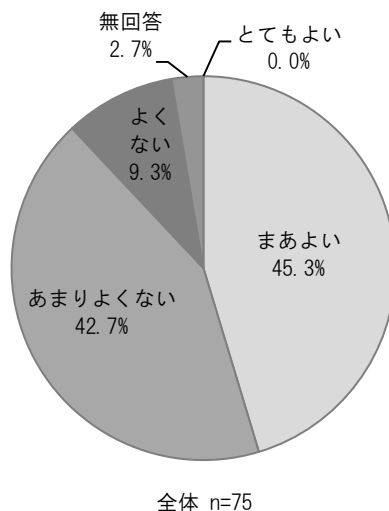


7 健康について

(1) 健康状態

○要支援者の調査対象者の現在の主観的健康感をみると、「まあよい」(45.3%)が最も多くなっていますが、「よくない」(9.3%)、「あまりよくない」(42.7%)を合わせた52.0%の方が健康でないと感じています。

問7-(1) 現在の健康状態はいかがですか

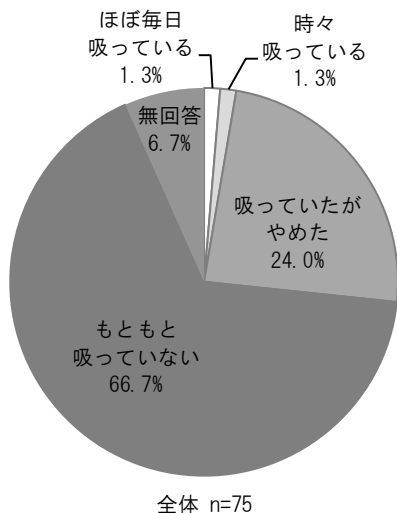


(2) 疾病と喫煙や飲酒の関係

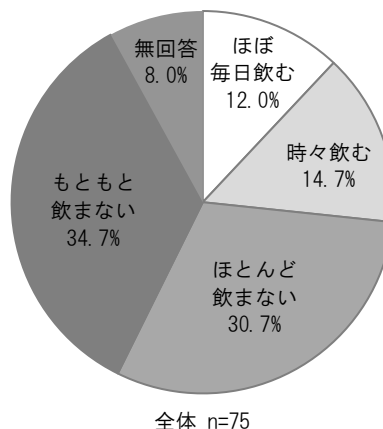
○要支援者の喫煙の有無では、「ほぼ毎日吸っている」(1.3%)と「時々吸っている」(1.3%)を合わせた2.6%の方が吸っていると回答しています。

○一般高齢者の飲酒の有無では、「ほぼ毎日飲む」(12.0%)と「時々飲む」(14.7%)を合わせた26.7%の方が飲んでいると回答しています。

問7-(5) 喫煙の有無

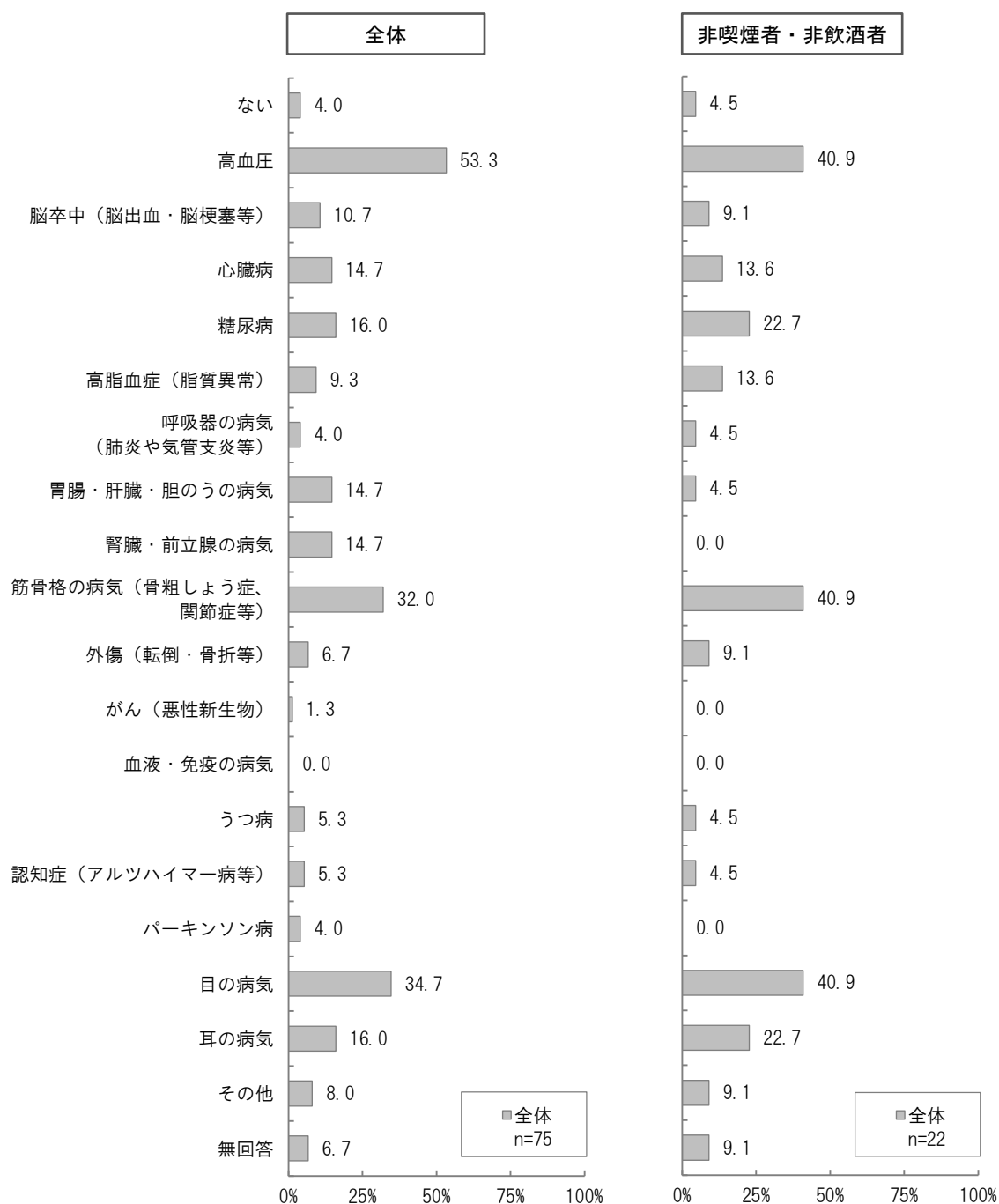


問7-(7) 飲酒の有無



○要支援者の現在治療中、または後遺症のある病気の有無をみると、全体では「高血圧」(53.3%)が最も多く、次いで「目の病気」(34.7%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(32.0%)の順となっています。非喫煙者・非飲酒者を比較すると「高血圧」「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」「目の病気」(各40.9%)は「高血圧」を除き、前者より約6~8割上回っているため、後者は疾病により医師から喫煙及び飲酒を止められている方が多いと思われます。

問7-(6) 現在治療中、または後遺症のある病気の有無



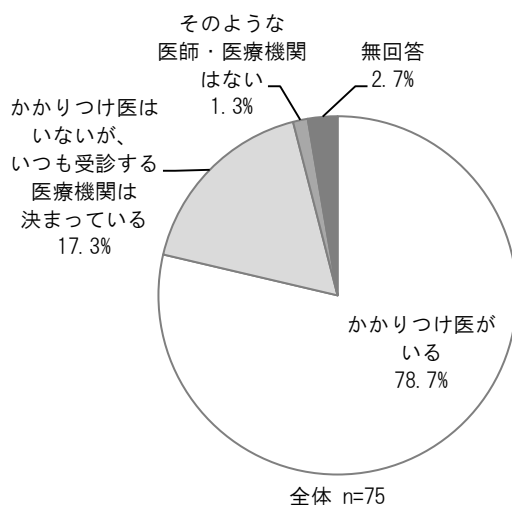
(3) 病気の治療・療養の状況

○要支援者のかかりつけ医の有無では、78.7%の方がかかりつけ医がいると回答しています。

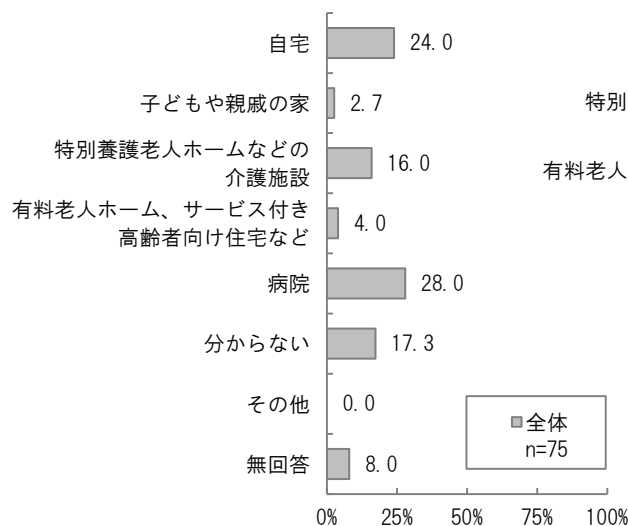
○要支援者の自分が長期療養時に過ごしたい場所は、「病院」(28.0%)が最も多く、次いで「自宅」(24.0%)、「特別養護老人ホームなどの介護施設」(16.0%)の順となっています。また、「分からない」と回答した方は17.3%います。

○要支援者の家族が長期療養時に過ごしてもらいたい場所は、「病院」(29.3%)が最も多く、次いで「特別養護老人ホームなどの介護施設」(16.0%)の順となっています。また、「分からない」と回答した方は28.0%います。

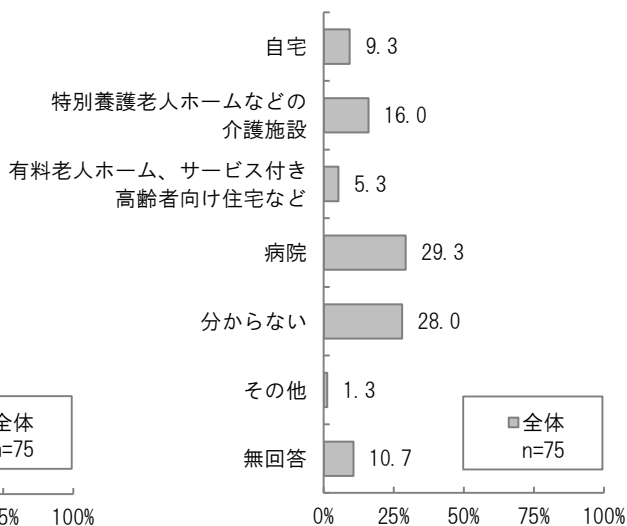
問 7-(8) かかりつけ医の有無



問 7-(9) 自分が長期療養時に過ごしたい場所



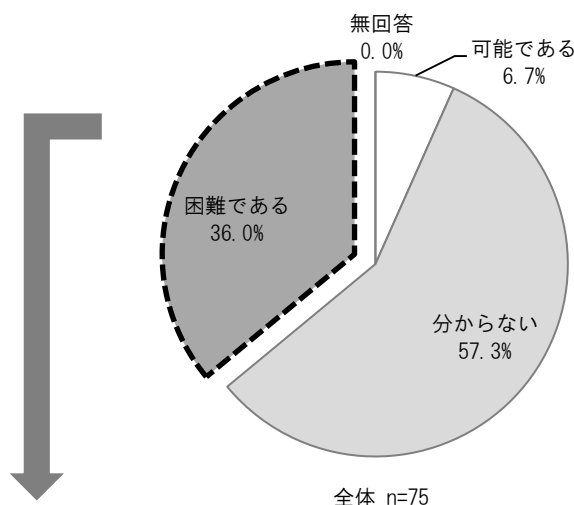
問 7-(10) 家族が長期療養時に過ごしてもらいたい場所



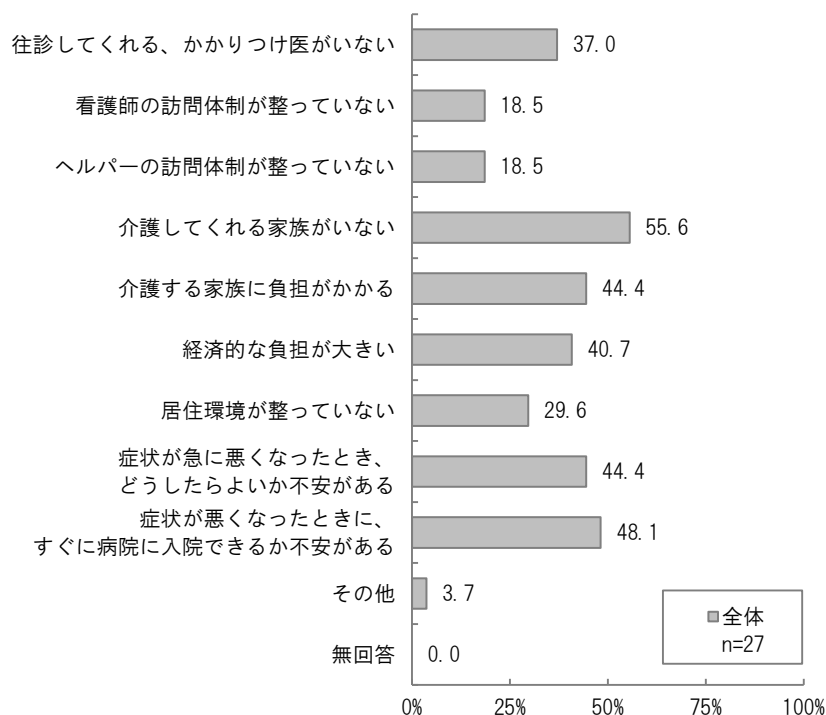
○要支援者のあなたやあなたの家族が自宅で最期まで過ごすことは可能かでは、36.0%の方が困難であると回答しています。

○要支援者の自宅で最期まで過ごすことが難しいと思う理由は、「介護してくれる家族がない」(55.6%)が最も多く、次いで「症状が悪くなったときに、すぐに病院に入院できるか不安がある」(48.1%)、「介護する家族に負担がかかる」「症状が急に悪くなったとき、どうしたらよいか不安がある」(各44.4%)、「経済的な負担が大きい」(40.7%)、「往診してくれる、かかりつけ医がない」(37.0%)、「居住環境が整っていない」(29.6%)の順となっています。

問7-(11) あなたやあなたの家族が自宅で最期まで過ごすことは可能か



問7-(11).① 自宅で最期まで過ごすことが難しいと思う理由



8 介護保険について

(1) 介護保険料の状況

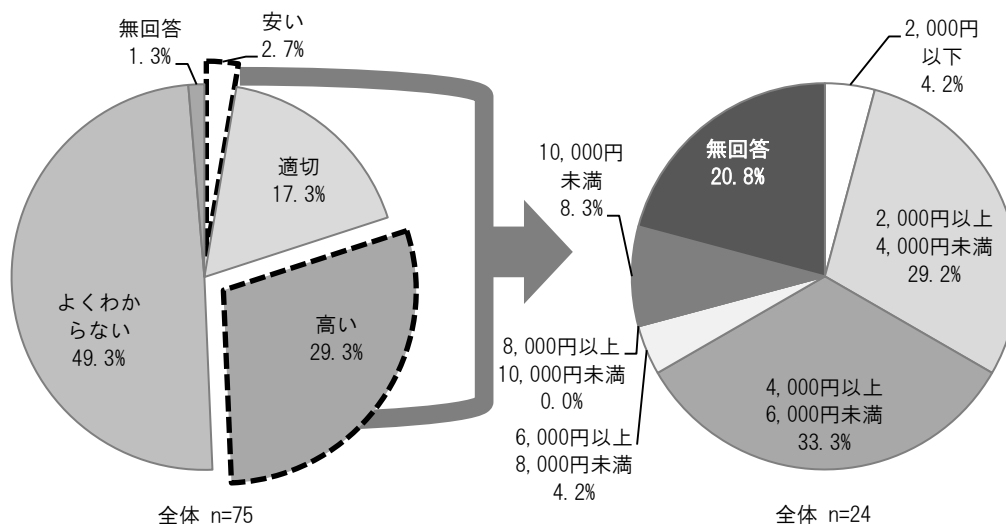
○要支援者の保険料の金額については、「安い」(2.7%)と「高い」(29.3%)を合わせた32.0%の方が保険料が適切でないと回答しています。

○また、適切だと思うひと月あたりの保険料の金額は、「4,000円以上6,000円未満」(33.3%)が最も多く、次いで「2,000円以上4,000円未満」(29.2%)となっています。

○要支援者の介護保険のあり方について、回答者の考えに一番近いものは、「よく分からない」(42.7%)が最も多く、次いで「介護サービスの水準や介護保険料は現状を維持してほしい」(34.7%)となっています。

問8-(1) 保険料の金額について

問8-(1).① 適切だと思うひと月あたりの保険料の金額



問8-(2) 介護保険のあり方について考えに一番近いもの

